

沖縄県

# 歯科医師会誌

*The Journal of the Okinawa Dental Association*

2022.November Vol 4



## Topics

★令和4年度第1回九地連役員会

★オープンキャンパス 沖縄歯科衛生士学校

★気になる本、お勧めの2点

- ★オアシス
- ・体力づくり 南部地区会員 伊禮昭洋
  - ・美容整形 南部地区会員 伊禮昭洋
  - ・コンビニより多い歯科医院ってホント？  
南部地区会員 比嘉良喬
  - ・「昔はこうだった」という前に働き方改革  
南部地区会員 比嘉良喬



(一社)沖縄県歯科医師会



表紙写真

亜熱帯の沖縄

ガジュマルは周囲に気根を垂らし  
樹勢は素晴らしい石や他の木を抱きかかえ  
一本の木からジャングルを創り出す  
くわ科の力強い木である(那覇市)

撮 影 者

渡 口 進 一

# content

## ● 県外報告 ●

- ・ 令和4年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会 学校歯科担当理事 玉城 齊 … 3
- ・ 令和4年度都道府県歯科医師会 社会保険・  
情報管理担当理事連絡協議会…………… 保険理事 座 覇 周 平 … 4
- ・ 第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会  
…………… 口腔保健医療センター専任歯科医 加 藤 喜 久 … 5
- ・ 令和4年度九州各県歯科医師会社保担当者会 …………… 保険理事 座 覇 周 平 … 6
- ・ 令和4年九州各県地域保健担当者会…………… 地域保健委員会 副委員長 崎 原 幹 雄 … 7
- ・ 令和4年度九州各県歯科医師会学術担当者会 …………… 学術委員会委員長 金 子 智 之 … 10
- ・ 九州各県広報担当者会…………… 調査広報委員会 委員長 長 堂 芳 子 … 11
- ・ 第86回全国学校歯科保健研究大会（やまなし） …… 学校歯科担当理事 玉 城 齊 … 12
- ・ 令和4年度第1回九地連役員会…………… 会 長 米 須 敦 子 … 14

## ● 県内報告 ●

- ・ 令和4年度沖縄県歯科口腔保健推進協議会…………… 会 長 米 須 敦 子 … 15
- 会員プロフィール…………… 17
- 沖縄歯科衛生士学校 オープンキャンパス…………… 専任教員 稲嶺直子・伊藝律紀 … 19
- 気になる本、お勧めの2点 …………… (医) 健生会 上原歯科クリニック 上 原 淳 … 21
- オアシス 体力づくり…………… 南部地区会員 伊 禮 昭 洋 … 25
- 美容整形…………… 南部地区会員 伊 禮 昭 洋 … 26
- コンビニより多い歯科医院ってホント? …… 南部地区会員 比 嘉 良 喬 … 28
- 「昔はこうだった」という前に働き方改革… 南部地区会員 比 嘉 良 喬 … 28
- 新聞歯科コラム…………… 30
- 地方紙だより…………… 32
- 理事会報告…………… 33
- 編集後記…………… 42
- 8020達成者認定証の発行について…………… 43
- 会員動向…………… 45



• 県外報告 •

## 令和4年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会

日時：令和4年8月20日（土）午後2時～午後4時45分  
場所：沖縄県歯科医師会 大研修室（Web開催）

学校歯科担当理事 玉 城 齊

- |               |   |
|---------------|---|
| 次             | 第   |
| 1. 開会の辞       | 長崎県歯科医師会<br>副会長 俣野 正仁   |
| 2. 挨拶         | 長崎県歯科医師会<br>会 長 渋谷 昌史<br>日本学校歯科医会<br>会 長 川本 強   |
| 3. 出席者紹介      |   |
| 4. 座長・副座長選出   |   |
| 5. 日本学校歯科医会報告 | 日本学校歯科医会<br>専務理事 長沼 善美  |
| 6. 協 議        |   |
|               | (1) 令和3年度九州各地区学校歯科関係事業計画<br>について<br>(2) 各地区提出協議題について<br>(3) 日本学校歯科医会への質問及び要望事項について<br>(4) その他 |
| 7. 次期開催県挨拶    | 宮崎県歯科医師会<br>常務理事 佐野 裕一  |
| 8. 閉会の辞       | 長崎県歯科医師会<br>副会長 山田 雅弘   |

### 【報 告】

九州地区学校歯科医役員連絡協議会は、九州各県と沖縄県の輪番で開催され、県教育委員会が主催する「九州地区健康教育研究大会」の時期に合わせて8月に開催される。

昨年は、沖縄県にて開催されたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下で、Web開催となった。今年は、長崎にて対面方式を予定していたが、オミクロン株の急激な感染拡大により、Web形式となった。

開会の辞を、長崎県歯科医師会 俣野正仁副会長が行った。その後、長崎県歯科医師会 渋谷昌史会長の挨拶の中で、口腔内スキャナーが健康診断で活躍する時代が来るのではないかと、興味深い話をされた。口腔内をスキャンした後に、AIにより判定を行う。そうすることで、学校歯科医の負担も大幅に軽減されるかもしれないとの話であった。

次に、日本学校歯科医会 川本強会長の挨拶では、歯列咬合「2」と判定した場合の対応について、学校歯科医の先生方に理解を求めた。

その後、出席者紹介を配布されているファイルにて名簿の確認を行い、沖縄県からは、伊波幸一委員長と栗田宅哉委員と私の三名で参加した。

座長選出では、例年通り、担当県より選出され、副座長はWeb開催ということもあり、去年同様選出せずに行った。

座長により進行が行われ、「日本学校歯科医会報告」では、日本学校歯科医会 長沼善美 専務理事より、日本学校歯科医会における研究倫理審査規定と利益相反に関する規程について説明がなされた。

次に協議に移り、(1)「日本学校歯科医会への要望事項について」各県からの要望に対して、日本学校歯科医会 長沼善美専務理事より回答が得られた。

(2)「令和3年度九州各地区学校歯科関係事業計画について」事前に配布されたファイルをもとに書面にて紹介された。

本題である(3)「各県提出協議題について」に移り、福岡県より順に協議題が読み上げ、協議が行われた。今回の協議会では、「健診における、歯列・咬合「2」と判定した場合の対応について」の協議題を福岡県、鹿児島県、長崎県から出された。

特に的を得た回答は鹿児島県で、鹿児島県歯科医会 会長名で、鹿児島県教育庁保健体育課に対応（お願い）の通知が出されている。

また、昨年同様、コロナ禍における、昼食後の歯みがきや、フッ化物洗口についての実施状況についての協議題も出され、各県苦慮しているように思えた。

沖縄県から出された協議題は、「コロナ禍で、学校歯科医になりたがらない会員の先生が出てきている。九州各県の状況はどうか」と提出した。

九州各県では、学校歯科医を拒む先生はいないと回答だった。この事例は沖縄県独自と思われる。今後の対策として待遇改善が必要と感じた。

次期開催県の挨拶では、宮崎県歯科医師会 佐野裕一常務理事より、来年こそは対面での開催をさせて頂きたいとの言葉を頂いた。

長崎県歯科医師会 山田雅弘副会長の閉会の辞で幕を閉じた。

Web開催ではあったが、委員会より3名の参加が許され、有意義な協議会となった。





・ 県外報告 ・

## 令和4年度 都道府県歯科医師会 社会保険・ 情報管理担当理事連絡協議会

日時：令和4年9月14日（水）午後2時～午後3時40分  
場所：オンライン開催

保険理事 座 覇 周 平

- 司 会 日本歯科医師会常務理事 宇佐美伸治
1. 開 会 日本歯科医師会副会長 遠藤 秀樹
  2. 挨 拶 日本歯科医師会会長 堀 憲郎  
厚生労働大臣政務官 本田 顕子
  3. 出席者紹介
  4. 議 事
    - (1) オンライン資格確認等システムについて  
厚生労働省保険局医療介護連携政策課長  
(医政局、老健局併任) 水谷 忠由  
大臣官房審議官（医療介護連携、  
データヘルス改革担当）  
(医政局、老健局併任) 森光 敬子
    - (2) オンライン資格確認導入原則義務化に伴う診療報酬上の加算の取扱いについて  
日本歯科医師会常務理事  
(社会保険担当) 林 正純
    - (3) 原則義務化のオンライン資格確認歯科医院の導入方法について  
日本歯科医師会常務理事  
(器材薬剤、情報管理担当) 宇佐美伸治
  5. 閉 会 日本歯科医師会常務理事  
宇佐美伸治

令和3年10月20日から本格運用が始まっているオンライン資格確認については、導入に必要となる「顔認証付きカードリーダー」の申込数が、全医療機関・薬局の約6割にとどまっている。令和4年6月7日に「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針2022）」が閣議決定され、オンライン資格確認の導入を原則として義務化することが決定し、令和5年3月末までに、おおむね全ての医療機関・薬局での導入を目指すという政府目標が掲げられています。

本協議会において、会員各位の各種会合において、オンライン資格確認に関する説明会を開催し、医療機関・薬局からの申込みを促進していくことや、ポータルサイトへのアクセスが困難である等の事情を有する医療機関・薬局に向けて、紙申請による顔認証付きカードリーダーの申込みについて、指定様式により各都道府県歯科医師会においてとりまとめ、社会保険診療報酬支払基金宛てに郵送にて提出できるよう調整いただいた。





• 県外報告 •

## 第28回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

日時：令和4年9月23日(金) 24日(土)  
場所：幕張メッセ

口腔保健医療センター専任歯科医 加藤 喜久

### I 報告事項

令和4年9月23日(金)～9月24日土曜日、第28回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が幕張メッセにて開催されました。

3年ぶりの対面開催であったことも有り、懐かしすら感じました。現地開催をメインに行なった学会で、一部ハイブリットで行われていたものの、多職種で構成されるこの学会は、会員数が15,000人を超え、幕張メッセ全館を使った会場でありました、狭く感じるほどの大盛況でした。ポスターセッションは、人が混み合うということも有り、対面で行われず全て会場専用wi-fiに接続しての電子デバイスのみでしか閲覧できないことは残念でした。

本大会のテーマは、「嚥下障害のSDGs」とのことで、昨今、盛んに耳にしていた言葉通り、17のゴールと169のターゲットから構成され、その中の「誰ひとり取り残さない」にかけて「誰ひとり取り残さない摂食支援」という複数のシンポジウムが開催されていました。「重症心身障害児への栄養・摂食支援」「介護の現場からの摂食支援」「地域の取り組みからの摂食支援」など、総合病院や大学病院のような専門職の大勢いる特殊な医療環境ではなく、生活期における限られた支援者で行われる、ある意味家族にとっての現場の「摂食支援」がテーマとなっていました。それぞれの詳細については、省略しますが、サルコペニア、ダイナペニア、ポリファーマシーなどの高齢者のお決まりの問題点、発達障害に関しては主に食形態の対応が支援学校、施設、作業所、在宅と本人が進む道によって、その節目節目で対応が困難になり、結局、刻み食やミキサーでという結末になってしまった事例などが紹介されました。

また、今年、本学会の初代理事長であり、本県の協力医研修会でも長年に渡ってお世話になった昭和大学口腔衛生学教室の向井美恵名誉教授の、先代の教授であった金子芳洋先生がお亡くなりになられ、その追悼シンポジウムも開催された。金子先生は、ご自身の小児歯科学の専門を超えて、摂食嚥下リハ

ビリテーションとして新たな専門領域を掲げ、本学会の前身である研究会を立ち上げられました。日本の「摂食嚥下障害に対する医療」の育ての親ともいえる方で、摂食機能療法の保健集約を医科に先駆けて歯科に集約させたり、80年代の嚥下黎明期に出版された「食べる機能の障害-その考え方とリハビリテーション」は、本邦で初の摂食嚥下に関するテキストブックとしてベストセラーとなり、この分野の礎となりました。発達障害児から始まったこの分野は、その後、高齢者の中途障害の嚥下障害へと広がり今日に至っています。

一般演題で印象的な発表は、VFの画像をAIに学習させて診断をする試みをNTTと共同で開発している症例が興味深かった。また、口演も今までのように対面で発表する演者もいる一方、コロナに対する職場の規定で急遽出てこれなくなった演者に対しては、録画したものを流すという対応がされていた。

コロナも一段落し、以前通りの学会活動や日常が戻ってきたのかなと思える久々の学会でした。





• 県外報告 •

## 令和4年度九州各県歯科医師会社保担当者会

日時：令和4年10月1日（土）午後2時～午後5時

場所：オンライン開催

保険理事 座 覇 周 平

司 会 熊本県歯科医師会社会保険委員会

副委員長 橋本 英樹

1. 開 会 熊本県歯科医師会副会長 椿 誠

2. 挨拶 熊本県歯科医師会会長 伊藤 明彦  
日本歯科医師会常務理事 林 正純

3. 出席者紹介

4. 座長・副座長選出

5. 日本歯科医師会報告

日本歯科医師会常務理事 林 正純

- ① 令和4年度診療報酬改定総括
- ② 金パラ関係
- ③ 指導・監査関係
- ④ 審査支払関連事項（オンライン資格確認関係）
- ⑤ 疑義解釈等

6. 協 議

- (1) 令和4年度九州各県社保関係事業計画並びに予算について
- (2) 各県提出協議題について
- (3) 日本歯科医師会への要望及び質問について
- (4) その他

7. 閉 会 熊本県歯科医師会

専務理事 牛島 隆

支払基金は、令和4年10月1日より「ICTを活用した審査事務の効率化・高度化」と「審査結果の不合理的な差異の解消」の実現に向け、審査事務集約によるブロック単位での組織体制へと変更になった。これにより、他県との審査結果の差異は以前より少なくなってきたように感じた。

ただ、各県とも支払基金と国保での審査結果の差異については、今後の課題であるという認識であった。





・ 県外報告 ・

## 令和4年九州各県地域保健担当者会

日時：令和4年10月1日（土）午後2時～午後4時30分  
場所：沖縄県口腔保健医療センター

地域保健委員会 副委員長 **崎原 幹雄**

出席者：地域保健委員会理事・屋嘉智彦  
委員長・野原昭彦  
副委員長・崎原幹雄  
他委員 高良孔明 宮本英欧  
センター運営理事・砂川英樹  
委員長・勝連義之

令和4年10月1日土曜日午後2時より、沖縄県口腔保健医療センターにて鹿児島県主幹の九州各県歯科医師会地域保健担当者会Web会議が下記のとおり開催された。

### 1. 開 会 鹿児島県歯科医師会

副会長 福原 和人

### 2. 挨拶 鹿児島県歯科医師会

会長 伊地知博史

日本歯科医師会

常務理事 小玉 剛

常務理事 山本 秀樹

### 3. 出席者紹介

### 4. 座長選出 鹿児島県歯科医師会 地域保健部会

常務理事 有村 健二

副座長 医療介護連携委員会

理 事 川越佳昭

### 5. 日本歯科医師会報告

日本歯科医師会 常務理事 小玉 剛

常務理事 山本 秀樹

下記の内容について説明がありました。

- (1) 歯科口腔保健推進に関する意見交換会
- (2) 「2040年を見据えた歯科ビジョン」への具体的な取り組み
- (3) 地域保健委員会における協議事項
- (4) 糖尿病・がん診療の医療連携に関するアンケート結果

(5) 全国歯科保健大会関係

(6) 「口腔健康管理」及び「オーラルフレイル」の活性化に向けて

(7) 災害歯科保健医療関係

(8) 認知症対応向上研修関係

### 6. 協 議

今年も昨年同様にコロナ禍でのWeb会議の為、全大会・分科会1・分科会2の協議題を鹿児島県が統括し、協議題を前もって絞って協議題を作成し協議を行う形式になりました。

司会：長崎県歯科医師会 地域保健部会

常務理事 有村 健二

(1) 日本歯科医師会への要望及び質問について

①他団体との要介護者等食支援等への対応について【福岡県】

②日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会との嚥下機能評価研修会の開催について【福岡県】

③「国民皆歯科検診」での居宅や施設におられる対象者への検討について【福岡県】

④各地域における医療介護総合確保促進法における歯科の位置付けについて【福岡県】

⑤要介護認定時での主治医からの意見書の歯科口腔の重要性について【福岡県】

⑥生活支援プログラムのアプリ開発の進捗状況について【福岡県】

⑦介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準について【佐賀県】

⑧日本健康会議における日歯の取り組みについて【佐賀県】

⑨コロナ禍におけるイベント等の再開基準について【大分県】

⑩訪問診療の対象患者について【大分県】

⑪コロナ禍における保育園および学校の歯科検



## 診実施状況について【沖縄県】

- ⑫周術期等口腔機能管理を通じた医科歯科連携推進と歯科疾患管理料算定（加算項目）について【鹿児島県】

(2) 令和4年度九州各県事業計画及び予算について

(3) 各県提出協議題について

{地域保健・産業保健関係}

- ①歯と口の健康週間におけるイベント開催状況について【長崎県】
- ②コロナ禍での代替え行事について【大分県】
- ③イベントや検診事業の非接触型への移行について【沖縄県】
- ④12歳児の一人平均むし歯数とフッ化物洗口実施状況の年次推移について【宮崎県】
- ⑤成人歯科健診、事業所検診の実施状況について【長崎県】
- ⑥事業所、健保組合歯科検診における健診費用の支払い方法について【大分県】
- ⑦各県の事業所歯科検診実施状況について【宮崎県】
- ⑧口腔細胞診復旧状況について【鹿児島県】  
{口腔機能発達不全症関連}
- ⑨口腔機能発達機能不全症に対する取り組みについて【長崎県】  
{行政関連}
- ⑩地域型日本健康会議における各県の取り組みについて【佐賀県】
- ⑪口腔保健支援センターでの活動内容と貴会としての関わりについて【熊本県】  
{医科歯科連携関係}
- ⑫禁煙指導の医科歯科連携について【大分県】
- ⑬各県における医療歯科連携の状況について【鹿児島県】  
(要介護老人・障がい者関係)  
{ICT関連}
- ⑭多職種連携におけるICTツールの相互活用について【福岡県】
- ⑮「通信画像情報活用加算」の活用方法について【福岡県】  
{医科歯科連携・多職種連携関連}
- ⑯通所介護施設、通所リハ施設と歯科医師会との

## 連携について【長崎県】

- ⑰医科歯科連携事業における各県の取り組みについて【宮崎県】

⑱多職種との合同研修会について【宮崎県】

- ⑲入院施設を有する歯科標榜医療機関（病院歯科）等と一般開業歯科との連携に関する各県の取り組みについて【鹿児島県】

{オーラルフレイル関連}

- ⑳市町村などの各自自治体と連携した、地域住民、とくに高齢者における「口腔機能低下症」、「オーラルフレイル」の予防に関して、各県、各地区で特別に行っている取り組み等に関して【佐賀県】

{医療的ケア児関連}

㉑医療的ケア児の歯科診療提供体制について

【福岡県】

㉒障がい者（児）等への歯科保健推進事業の実施状況について【佐賀県】

㉓在宅障害児に対する訪問歯科診療の取り組みについて【長崎県】

㉔各県における障害者センターの医療的ケア児との関わり方及び訪問の実情について【沖縄県】

㉕障害者及び医療的ケア児の歯科医療に対応できる二次医療機関の現状について

【鹿児島県】

{後期高齢者歯科検診関連}

㉖広域連合の歯科口腔健診について【大分県】

㉗後期高齢者歯科検診について【熊本県】

{地域ケア会議関連}

㉘地域ケア会議に関する出席依頼および日当の状況について【長崎県】

{へき地診療関連}

㉙へき地での歯科訪問診療提供体制について

【福岡県】

(4) その他

## 7. 次期開催県挨拶

大分県歯科医師会 理事 森崎 重規

## 8. 閉 会 鹿児島県歯科医師会

専務理事 栄 千登美

## 感 想

今年もコロナ禍でのWeb開催となりました。主幹の鹿児島県歯科医師会先生方のご尽力で、非常にまとまった協議題で進行もスムーズに行われました。今年度は昨年度とは、脱コロナ禍でのフッ化物洗口実施の再開や健診の態勢の再構築、イベントの再構築等の前向きな協議も多くみられました。

また、10月1日から執行になった、有害な業務に係る歯科健康診断結果報告書の義務化に「についても多く日歯への質問・協議がなされました。

医科歯科連携に関しては、残念ながら当県同様に各県医科との繋がりが持てず模索している感じでした。もっと歯科から医科に発信していく事も大事ではないかという意見に考えさせられました。糖尿病関連に関しても日歯が消極的なのもこの会議で確認が出来ました。

当県の事業であるDoチェックプログラムと似たような事業も立ち上げようとしており、当県のやってきた事の重要性を再確認しました。

沖縄県も粛々と今ある事業を進めていき、来年の九州担当者会議で何か成果が発表出来たらと、モチベーションの上がる会議内容でした。

来年度こそは大分県に委員で出向き、対面の会議が出来る様になればと節に希望しました。





• 県外報告 •

## 令和4年度九州各県歯科医師会学術担当者会

日時：令和4年10月1日（土） 午後2時～午後4時30分

場所：沖縄県口腔保健医療センター（web会議）

学術委員会委員長 **金子 智之**

### 次 第

1. 開 会  
宮崎県歯科医師会 副会長 高橋 紳八
2. 挨拶  
宮崎県歯科医師会 会 長 重城 正敏
3. 日本歯科医師会報告  
日本歯科医師会 常務理事 尾松 素樹
4. 協議事項 九州各県学術担当者
5. 次期開催県挨拶  
沖縄県歯科医師会 理 事 眞喜志早江子
6. 閉 会  
宮崎県歯科医師会 専務理事 黒木 康夫

令和4年度九州各県歯科医師会学術担当者会が、宮崎県歯科医師会主催の下、Webにて開催されました。

宮崎県歯科医師会会長の重城正敏様の挨拶に続いて、日本歯科医師会常務理事の尾松素樹様の日歯からの報告があった。内容は、2040年を見据えた歯科ビジョンの具体的な取り組みの概要について説明されました。

その後、協議事項に移り(1)令和4年度九州各県歯科医師会学術関係事業計画及び予算についての報告がありました。各県とも概ね昨年と似た内容でしたが、福岡県のみ九州デンタルショーと併催した部分があり予算が増えていました。

次に(2)各県提出議題となり以下の項目について提議、回答という内容になりました。①BLS講習会の開催について②学術研修会の開催状況について③コロナ禍における研修会の開催状況について④オンライン開催をする際のIT弱者への対応について伺いたい⑤新型コロナ社会のもと各県のWEB会議をはじめOn lineでの各種委員会、講演会の状況およびさらに優れた活用方法等がございましたらご教示ください。⑥一般市民を対象とした講演会におけるテーマ、講師選定について。⑦各県の日歯生涯研修における、認定、修了取得への動機付けを伺いたい。⑧睡眠時無呼吸症のOA作成に関して、睡眠内科から歯科への装置作成が高まる中、沖縄県は学術委員

会を窓口でOA作成可能医院（歯科医師会会員）のリスト作成を検討しております。

他県ではこのような取り組みはありますでしょうか。⑨九州ブロック内での学術講演会相互配信に関して⑩スポーツデンティストに関してなどが事前に回答された内容を元に協議されました。その後、(2)日歯への要望および質問についての協議がされました。①スポーツマウスガードの普及について②国民皆歯科検診の案がニュースでも報道され多くの国民が関心を寄せている。連盟が推している 国会議員が国政において尽力しているが、歯科の介入が全身の健康に与える影響についての学術的サポートは行われているのでしょうか？行われているのであれば具体的にはどのようなサポートが行われているかお聞かせ願いたい。③Eシステムによる施設基準研修を継続してほしい④日歯生涯研修事業（Eシステム、生涯研修セミナー等）について⑤学術講演会の講師推薦、並びに全国学術講演会のリストについて協議されました。その後、自由質問で歯科衛生士と歯科技工士の需給問題について、歯科衛生士の麻酔についての協議が行われた後に、次期開催県である本県の眞喜志理事より挨拶があり、閉会の辞へと移り、無事に終了しました。来年は本県が当番県ですので皆で協力して成功させたいと思います。



• 県外報告 •

## 九州各県広報担当者会

日時：令和4年10月15日（土）午後2時～午後3時  
場所：沖縄県歯科医師会主管（web開催）

調査広報委員会 委員長 長堂 芳子

### 次 第

司 会：沖縄県歯科医師会

調査広報委員長 長堂 芳子

1. 開会の辞 沖縄県歯科医師会  
理 事 梅村 誠
2. 挨拶 沖縄県歯科医師会  
会 長 米須 敦子  
日本歯科医師会 理 事 脇田 晴彦
3. 出席者紹介
4. 座長・副座長選出
5. 日歯報告 日本歯科医師会 理事 脇田 晴彦
6. 協 議 ①令和4年度各県広報関係事業計画  
及び予算について  
②各県提出協議題について  
③日本歯科医師会への要望及び質問  
について  
④その他
7. 次期開催県挨拶 鹿児島県歯科医師会  
理 事 要 光
8. 閉 会 沖縄県歯科医師会  
調査広報委員長 長堂 芳子

各県からの提出議題は、情報通信技術化が進んだ中でのペーパーレス化コスト削減に如何に取り組んでいるか、県独自の動画配信を行っているか、会誌の写真や記事に対する取り組み等が挙げられた。宮崎県のメールアドレス登録が会員の9割を超えているという回答には、如何にしてそれを達成したかという質問が多く寄せられた。

日歯への質問として、「九州各県は、ペーパーレス化を図っているが日歯はこれに対しどう考えているか」という質問が出た。脇田理事は「日歯は、全会員の元に確実に会誌や情報を届けるという事が目的である。だから、ペーパーレス化でコスト削減を図るといふ事とは自ずと目的が違っている」と回答された。

協議は滞りなく行われ、次期開催県の鹿児島県要光理事の挨拶後、閉会した。

日歯報告として、脇田理事より新年号への写真募集（一人3点まで）や日歯の取り組んでいる様々な広報活動の紹介がなされた。小冊子のWEB化も行っている事やメンバーズルームの小冊子等、患者さんに対する情報提供に活用してほしいと要望された。また、日本産婦人科学会が監修している妊婦向け満載の無料スマホアプリ「Babyプラス」に、妊娠期の女性が安心して受診できる地域の歯科医院情報が掲載されたので、これに登録活用を推進している事、「よ坊さん」Lineアプリのリリース開始も報告。新たに「人生をもっと楽しくもっと豊かに」をスローガンにロゴ、シンボルマークVI（ビジュアル、アイデンティティ）を策定したとの報告があった。





・ 県外報告 ・

## 第86回 全国学校歯科保健研究大会(やまなし)

日時：令和4年10月20日(木) 正午～午後5時30分

場所：YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)〈ハイブリット開催〉

学校歯科担当理事 玉 城 齊

### プ ロ グ ラ ム

#### 1. 開会式・表彰式

#### 2. 特別講演

『マリ共和国農村部における人々の健康づくりについて。』

歯科医師、カラ西アフリカ農村自立協会代表  
歯科医師／日本歯科大学名誉博士 村上一枝氏

#### 3. シンポジウム

##### 〈座 長〉

公益社団法人日本学校歯科医会

副会長 野村 圭介氏

##### 〈基調講演〉

『健康診断後の事後措置の展開』明海大学

学 長 安井 利一氏

##### 〈シンポジスト①〉

文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課

健康教育調査官 松崎 美枝氏

##### 〈シンポジスト②〉

足立区立中学校教育研修会学校保健部会・

足立区立第十中学校 主幹教諭 平澤 規子氏

##### 〈シンポジスト③〉

東京都学校歯科医会 会 長 鈴木 博氏

#### 4. 閉会式

#### 【報 告】

第86回全国学校歯科保健研究大会が、山梨県甲府市にて開催された。本大会は、年に一度開催され、沖縄県においても4年前の2018年に第82回大会が宜野湾市にて開催された。その翌年の2019年には第83回大会が山口県にて開催されたが、その後は新型コロナウイルスの影響により、2020年第84回大会の福井県は中止となり、2021年第85回大会は三重県を予定していたが、会場を東京都に移しWEB開催の形式となった。そして今年2022年は、80年ぶりに山梨県が2回目の会場となり、対面とオンラインによる、初めてのハイブリットでの開催となった。

毎年一貫した大会のメインテーマは『口腔から全身の健康づくりを目指して』で、開催県で決めるサブテーマは『未来の生活を支える学校歯科保健』と

定められている。

大会当日の午前8時に飛行機にて羽田に飛び、東京経由で会場の山梨県甲府市にJRで向かった。会場に到着した際は、開会式・表彰式には間に合わず、特別講演からの参加となった。

講師の日本歯科大学名誉博士 村上一枝氏は、発展途上国のアフリカ・マリ共和国への支援事業を1989年より始め、約30年続けている。

30年間に、植林活動やインフラ整備、産院や診療所、そして識字教室の支援も手掛けている。その功績が認められ、数々の賞を受賞し、2020年にはノーベル平和賞候補に推薦され、事務局から受託されている。

講演内容は、主にマリ共和国における支援活動の紹介だったが、81歳とは思えぬほど、声に張りがあり、芯の強さを感じた。講演時間を20分程オーバーはしていたが、聴衆を大いに魅了した。

10分の休憩後、シンポジウムに移り、「健康診断後の事後措置の展開について」と題して、座長を公益社団法人日本学校歯科医会副会長の野村圭介氏が務め、基調講演を明海大学 安井利一学長が行い、シンポジストに①文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 松崎美枝氏、②東京都学校歯科医会 会長・元日本学校歯科医会 理事 鈴木博氏、③足立区立第十中学校 主幹教諭 平澤規子氏の三氏が務めた。

冒頭の座長挨拶では、野村副会長より、健康診断は児童生徒本人やその保護者に対して丁寧な事後措置を展開していくが重要なカギになる事を、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの解説を交えて述べた。

安井学長による基調講演では、主題に『健康診断後の事後措置の展開について』、副題には「歯・口腔の健康診断から自律的自己管理能力の向上を図る事後措置の考え方」と題して講演が行われた。

はじめに、文科省の学校保健統計調査において、むし歯は減少傾向が明確で、これまでの事後措置と一体となった育成が「自律的健康づくり」への確かな方策であった事を述べた。さらに生きる力を育む自律性を支援する事後措置について語り、事後措置

から生涯を通じて心身のサイクルに気づく子どもの育成についても述べた。おわりに、学校保健において、子供達が理解できる健康教育に真剣に取り組む必要性があり、「健康障害」を引き起こしてから健康について意識するのが我が国の現状であり、今後学校での歯科健診と事後措置について、新しい概念を形成する事が望まれるとまとめ、講演を終えた。

シンポジウムでは、最初に文科省の松崎美枝先生が行政の立場から発表し、次に学校現場から東京第十中学校 養護教諭 平澤規子先生からの発表、最後に学校歯科医の立場から東京都学校歯科医会 鈴木博会長より発表が行われた。発表後には、安井学長も交えてディスカッションが行われ、事後措置の重要性と今後の展望について意見交換が行われた。

閉会式に移り、次回開催地区の大阪府に、学校歯科の鐘が山梨県から川本会長を通して大阪府に手渡された。柘植紳平副会長の閉会の辞で幕を閉じた。

その後、バルクラシック甲府に会場を移し、意見交換会が行われた。山梨県県庁職員で、やまなし観光推進機構 理事長 仲田道弘氏によるワイン講座が行われ、山梨県産ワインの紹介を兼ね、興味深い内容を披露した。

久しぶりの対面による現地開催ではあったが、ハイブリット形式ということもあり、現地での参加者は300名程度との事だった。後日、領域別研究協議会をオンデマンド配信（10月20日〔木〕～11月20日〔日〕まで公開）で拝聴の予定である。

コロナ禍前の4年前に行われた沖縄大会を思い起こす場になったが、先生方の学校歯科保健に対する、熱意を再確認させられる大会でもあった。



● 県外報告 ●

## 令和4年度第1回九地連役員会

日時：令和4年10月22日（土）午前11時30分～午後1時  
場所：鹿児島県

会 長 米 須 敦 子

令和4年10月22日（土）、第74回九州歯科医学大会 in KAGOSHIMA が「踏み出そう未来へ スポーツとともに ～フレイルを前向きにとらえて～」をテーマに宝山ホールにて3年ぶりに現地開催された。先立ち、令和4年度第1回九地連役員会が11時30分から開催された。新役員に代わってから初めての対面での開催となった。

年度末諸会議及び諸連絡協議会の開催予定が以下のように決定・確認された

令和5年1月7日（土）

第2回九州各県専務理事会 長崎県（現地開催予定）

令和5年2月18日（土）

第2回九州各県会長会 大分県（現地開催予定）

令和5年2月18日（土）

第2回九地連協議会 大分県（現地開催予定）

第75回九州歯科医学大会は、令和5年10月21日（土）宮崎県にて開催することが重城宮崎県会長より報告があった。

令和4年度災害歯科保健医療アドバンス研修会は、今後九州各県で平等に参加していく事になった。

今年度宮崎県、大分県の参加、令和5年度は、佐賀県、沖縄県の参加となった。（令和2年より開催：福岡県、長崎県 令和3年：熊本県、鹿児島県が参加）

### 次 第

1. 開 会 門司 副会長

2. 挨拶 大山 会長

3. 報 告 川端 専務理事

### 4. 議 事

(1) 第74回九州歯科医学大会の運営について

(2) 他諸議題について

### 5. 協 議

(1) 年度年初会議及び所連絡協議会開催予定について

### 6. 閉 会 江里 常務理事

令和3年度九地連公募研究事業報告

・九州歯科大学

・久留米大学医学部歯科口腔外科医療センター

・長崎大学医歯薬総合研究科

・宮崎県歯科医師会





• 県内報告 •

## 令和4年度 沖縄県歯科口腔保健推進協議会

日時：令和4年8月3日（水）午後1時～午後3時  
場所：沖縄県歯科医師会大研修室

会 長 米 須 敦 子

「沖縄県歯科口腔保健推進協議会」は、「沖縄県における歯科口腔保健の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、県民の健康の保持増進に寄与する目的として、施策の策定、推進方策等を検討する」ことを目的として設置されている。構成委員（団体名）は以下のとおりである（19団体19名）

1. (一社)沖縄県歯科医師会 会 長 米須 敦子
2. (一社)沖縄県医師会 理事 砂川 博司(欠席)
3. 琉球大学大学院医学研究科顎顔面

口腔機能債権額講座 教 授 中村 博幸

4. (一社)沖縄県歯科衛生士会  
会 長 野田 直美

5. (公社)沖縄県看護協会 専務理事 小嶺早百合
6. (公社)沖縄県栄養士会 理 事 新垣 弘美
7. (一社)沖縄県婦人連合会 会 長 与那覇信子
8. 沖縄県食生活改善推進員連絡協議会

会 長 新垣貴美子

9. 沖縄県身体障害者協議会  
常務理事兼事務局長 仲本 潔

10. (一社)沖縄県介護支援専門員協会  
会 長 高良 清健

11. (公社)沖縄県PTA連合会  
(代理出席) 副会長 奥間千賀子

12. 沖縄県保健協議会 会 長 上原 東

13. 沖縄県市長会 事務局長 伊波 邦彦

14. 沖縄県町村会 会 長 宮里 哲(欠席)

15. 沖縄県商工会議所連合会  
(代理出席) 事務局長 福地 敦士

16. (一社)沖縄県沖縄県経営者協会  
総務部長兼企画調査部長 玉那覇紀宏

17. 全国健康保険協会沖縄県支部  
企画総務部長 荒木 直彦

18. 沖縄県教職員組合  
書記長 小濱まゆみ

19. 沖縄県教育庁 保健体育課長 城間 敏生

以下次第に沿って 沖縄県医療政策課 議長によって進行された。

1. 開 会
2. 保健衛生統括官あいさつ
3. 構成員紹介
4. 報 告

- (1) 沖縄県歯科口腔保健推進計画（歯がんじゅうプラン）の最終評価及び次期計画策定について

- (2) 口腔保健支援センター設置について

- (3) 沖縄県の歯科保健の現状について

### 5. 提案・意見交換

- (1) 沖縄県歯科口腔保健（歯がんじゅうプラン）の評価目標一覧

- (2) 沖縄県の歯科口腔保健医療対策（令和3年度実施状況及び令和4年度実施計画）について

- ① 幼児期：学齢期のむし歯予防対策について

・親子で歯っぴ〜プロジェクト

・親子で歯っぴ〜プロジェクト（5歳児版）

・永久歯のむし歯予防推進事業（フッ化物洗口）

- ② タブレット活用オンライン口腔保健指導モデル事業

- ③ かかりつけ歯科医推進事業

- (3) 沖縄県の歯科口腔保健医療対策への提案

- ① 還暦での初回歯科医院受診費用補助について

- ② 乳幼児健診受診への早期乳歯脱落の有無の文言挿入について

- ③ 歯科衛生士育成補助について

- (4) その他

- ① 国民皆歯科健診について

- ② 歯科医療機関のリストについて



## 6. 情報提供

- (1) しっかり噛む事の重要性について（歯がんじゅう月間啓発動画）
- (2) 「フッ化ぶつ ぶくぶく うがいの歌」について
- (3) マスク下の健康体操について（バス広告啓発媒体）

## 7. 閉会

各団体からの各事業への事前質問や要望等があった。

### 1. 「永久歯むし歯予防推進事業」

沖縄県教職員組合 書記長 小濱まゆみ

むし歯予防は、「歯磨き」である。フッ素化合物の安全性について疑問である。学校では、養護教諭が担当することになり、実際に高い濃度の洗口液でうがいをさせた事例が出ている（R2年5月21日鹿児島県）ミスがあった時の責任の所在も明らかではない。

### 2. 「タブレット活用オンライン口腔保健指導モデル事業」

沖縄県婦人連合会 会長 与那覇 信子

2か所の事業所職員27名に対しタブレットを活用してオンラインにて指導とあるが、どのような職種の事業所で、どの様に事業所を選出したのでしょうか？タブレットの所有者は？事業の成果はありましたか？

### 3. 還暦（60歳）での初回歯科医院受診費補助

4. 1歳半、3歳児健診での乳歯早期脱落を指標とした低ホスファターゼ症の早期発見、健診問診票への早期乳歯脱落の有無の文言の挿入

### 5. 良質な歯科衛生士育成補助、優秀者への奨学金補助

#### 3. 4. 5 提案者

琉球大学顎顔面口腔機能再建学講座

教授 中村 博幸

### 6. その他

時間外や休日診療、WEB予約が可能な歯科医療機関のリストがあれば情報提供いただければ、保健指導等で活用できます。

全国健康保険協会沖縄県支部

企画総務部長 荒木 直彦

現在県歯で行っている委託事業を含めた口腔保健事業の方向性は社会が必要としている事にむかって行われている。しかし周知や共有が難しく、足りないと感じた。今、本会の体制も多関連委員会で行う必要を感じた。



# 会員プロフィール

- ①氏名(ふりがな)
- ②生年月日
- ③出身大学・卒業年度
- ④歯科医院名・所在地
- ⑤医院の特徴・PR
- ⑥趣味・マイブーム・自己紹介
- ⑦家族構成・ペット等
- ⑧県歯科医師会に望むこと



- たか ら ま ろ  
 ①高 良 麻 呂  
 ②1996年2月6日  
 ③東京歯科大学 2020年度卒

- ⑤患者さんの意見を尊重し、なるべく抜かない  
削らない金属を使わない治療を心がけています。  
 ⑥まだまだ若手ですが、よろしくお願ひします。  
 ⑦5人家族・猫3匹

- ④(医) 笑歯会ペリー歯科クリニック  
 沖縄県那覇市小禄 421-29



- や ぎ のぶ ひさ  
 ①屋 宜 宣 寿  
 ②1977年4月16日  
 ③福岡歯科大学

- ⑥令和2年11月に読谷村にてよみたんハート歯  
科を開業いたしました。  
 今後とも宜しくお願ひします。

- ④よみたんハート歯科  
 沖縄県読谷村伊良皆 367-3



いけ だ なお き  
①池 田 直 樹  
②1975年3月10日  
③長崎大学 2000年

④球美の歯科

沖縄県久米島町真賀里 78  
コーポ球美 1F



たか だ たか みつ  
①高 田 隆 充  
②1982年2月5日  
③長崎大学 2006年度

- ⑤歯科治療を全般的に行っています。
- ⑥サーフィン、沖縄の海が好きで、13年前に移住してきました。
- ⑦妻
- ⑧歯科保険請求、最新の歯科治療  
歯科医院経営などの研修を行って頂けるとありがたいです。

④なぎさ歯科医院

沖縄県うるま市塩屋 402-1



うえ ま そう こ  
①上 間 聡 子  
②1967年8月23日  
③九州歯科大学

- ⑥この地に2004年に開業しました。開業と子育ての時期が重なり 歯科医師会関係は 全て主人がやってくれていて、私は2人の子供といることが趣味のようなものでした。子供が2人共小学校からやっている野球の応援が何よりの楽しみで大学生の今も機会を伺っています。
- ⑦長男 次男
- ⑧幅広い分野の講習会をお願いします。

④うえま歯科クリニック

沖縄県那覇市おもろまち 4-16-32

- ⑤0歳から90代まで 保険治療中心に行っています。  
泊港が近いこともあって 周辺離島からも来院していただいています。

# オープンキャンパス

## 沖縄歯科衛生士学校

専任教員 稲嶺直子・伊藝律紀

令和4年度オープンキャンパスを6月11日（土）、8月5日（金）に開催致しました。

第1回は、感染対策を徹底した上で、対面形式で実施しました。志喜屋教務副主任による開会挨拶の後、本校2年生ボランティアと参加者を数名ずつのグループを作り、実習室のユニットを使って印象採得の模擬実習、在校生との懇談、校内案内、動画による3年間の学生生活紹介を行いました。

第2回は、県内の新型コロナウイルス感染増加の為、参加者の安全を考慮しオンラインでの実施となりました。3年間の学校生活を紹介した動画視聴に加えて在學生との懇談を実施する事で、「直接学校に行けなかったが、学校の雰囲気を知ることが出来た」という声を頂けました。

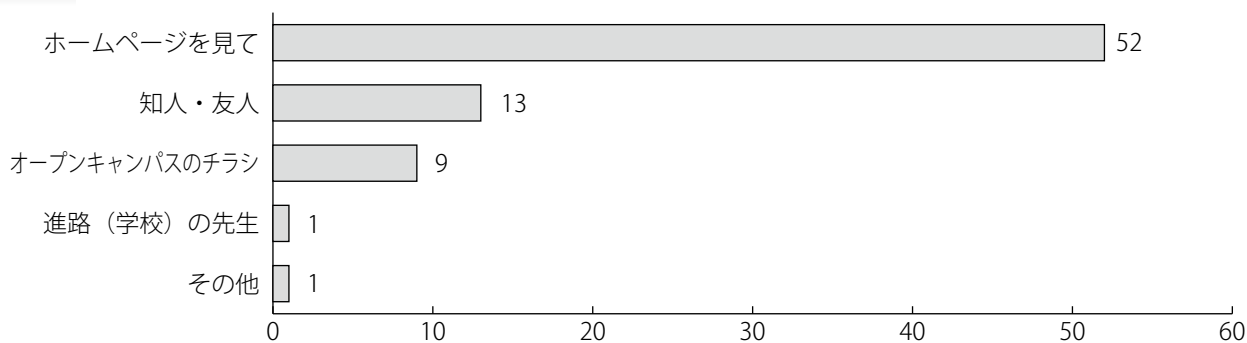
また、前年度から導入した本校学生募集パンフレットに記載している《360° VR学校案内》を紹介し、「施設の様子を見る事が出来て、分かりやすかった」と好評でした。

今年で2回目になるオンライン上でのオープンキャンパス開催ですが、しっかり感染対策が取れ、コロナ禍でも安心して参加する事が出来たという声がある一方で、やはり実際に来校し実技実習を経験したい等の要望があり、今後更に充実したオープンキャンパスを開催出来るよう工夫をしていく必要があると感じました。

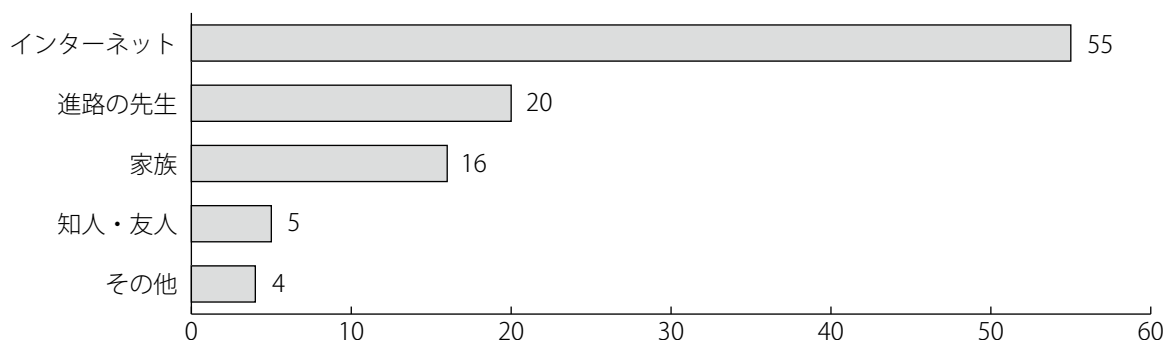
### 令和4年度 オープンキャンパスアンケート結果

(参加者 第1回32名 第2回34名 計66名/アンケート回答者数 59名)

#### Q1 本日のオープンキャンパスは何で知りましたか？（複数回答可）



#### Q2 進路を決めるとき、情報収集はどのようにしていますか？（複数回答可）





### Q3 オープンキャンパスの内容について

#### ① 模擬実習 (第1回のみ)

良かった	32名
普通	0名
あまり良くなかった	0名

#### 《理由》

- ・実際にしてみてもっと興味が湧いた
- ・初めて型取りをやって、こういう風に歯型をとっているんだと知れたから

#### ② 校内案内 (第1回のみ)

良かった	32名
普通	0名
あまり良くなかった	0名

#### 《理由》

- ・設備を実際に見ることができてよかった
- ・2年生の人が丁寧な説明でいろんなところを見せてくれたから

#### ③ I. 第1回目対面での在校生との懇談

良かった	32名
普通	0名
あまり良くなかった	0名

#### 《理由》

- ・奨学金の事等、参考になる事を分かりやすく教えてくれたから
- ・同じ社会人経験の在校生のお話が聞けたので参考になりました

#### II. 第2回オンラインでの在校生との懇談

良かった	26名
普通	1名
あまり良くなかった	0名

#### 《理由》

- ・質問をして在校生に答えて頂いたり、交流を通して学校の雰囲気を少し感じられたから
- ・在校生同士の会話を見て仲がいいのが伝わってきた

### Q4 本校への受験について

受験したい	51名
迷っている	6名
受験しない	2名

### Q5 歯科衛生士以外に興味のある職種はありますか？

ある	15名
ない	44名

《職種》 医療事務、公務員、社会福祉士、調理師、保育士、グランドスタッフ、ホテル業、外国語関連、看護師、歯科助手、歯科関係企業への就職、美容系

## ☆オープンキャンパスの様子☆



在校生との懇談



印象採得実習



システム机紹介・操作



AO エントリー個人面談



ZOOM での学校説明

第2回は  
オンラインでの  
開催でした！

# 気になる本、お勧めの2点

(医) 健生会 上原歯科クリニック 上原 淳 (浦添)

## その1、「文人と歯恩」

著者：中原 泉、出版社：一世出版



要所に著者の言葉を借りながら、その内容を紹介したい。

序章では江戸時代の前期から中期に生きた薬用薬石効の本草学者で、儒学者の84歳で没した貝原益軒の記述から始まる。人生50年と言う当時においては破格の長寿で、現代ならとうに100歳を超える長寿である。彼の著した「養生訓」は今日の日常の予防医学に通底するものがある。

彼は先ず健康・長寿には毎朝、歯と歯茎を塩で擦り磨き、穏湯で口中を20、30回漱ぐことをすすめた。

「今83歳にいたりて、なお夜、細字をかきよみ、牙齒固くして一も落ちず、目と歯に病なし。」と見事である。

しかしながら、本書の登場人物、滝沢馬琴、小林一茶、内村鑑三、松尾芭蕉、窪田空穂、夏目漱石、室生犀星など、古今の文人たちは益軒とは真逆で、口腔の病に悩み苦しんだ日常生活を送った。詩文や学芸に携わる彼らの様子が、自らの日記類に歯口腔の病苦を切々と痛々しく綴られていて、今に生き生きと伝わってくる。

本書は序章から第8章ににわたり、それぞれの日記、句集、作品、全集など膨大な資料を綿密に検索して構成されたドキュメントで、生の声が聞こえて

くるような臨場感溢れる内容である。

この本のタイトルの「歯恩」と言う言葉に先ず目が行く。

著者の言葉を借りると「むかしは老若も男女も、殿様も乞食も、歯痛と言う災いをのぞこうと、加持祈禱し、易占いをし、歯神に参拝し、ひたすら神頼みをするしかなかった。

膿漏や膿瘍が悪化して顎骨に波及し、死に至る者も少なくなかった。

歯が抜ければ無残な腑抜けのまま、嘆き悔み後生を願うほかはなかった。

現代であればふつうに治癒するのに、哀れ、痛ましい、気の毒な思いである。

現代医学を享受している私どもは、我と彼の歯科医療の時代落差を忘れることなく、今に感恩の念を新たにしたい」と……。

「たかが歯、されど歯」、ひとの生き様に片時もないがしろに出来ない歯の有難さ、先人達によって積み上げられてきた歯科医療の発展に改めて感謝の念を忘れてはならない、とのメッセージが「歯恩」に込められているように、個人的には捉えている。

第一章は「南総里見八犬傳」、「椿説弓張月」などの著者、滝沢馬琴の40歳を超えてから80歳を超える長期にわたる「馬琴日記」を細部漏らさず根気よく記述されている。

とりわけ、その中の「雅俗日記」と題された木床入れ歯に関する記述は歯科医学史珍しい木床入歯について、その入歯治療に難渋する様子が手に取るように迫ってくる。

入歯師との思うようにならないやり取りの様子、九段、飯田町、神楽坂などの地名、その当時の様子に思いをはせながら、その時代が身近に感じられる。

第二章は65年の生涯で2万句を詠んだと言われる小林一茶である。

おびただしい俳句の中から、彼が歯口腔の病に悩み苦しんだ句を選び抜きし、その「哀歯暦」が切々と綴られている。

一本また一本と歯を失っていく心細さを「なげなしの歯を秋風の吹きにけり」と、更にとうとう多く

の失った無念さを「かくれがや歯のない声で福は内」にたくしている。

なお更に「わか水の歯に染（しむる）のもむかし哉」と寒さ厳しい信州の陰暦正月に、よる歳とともに失った歯を思い出しながら、過ぎ去った往年を懐かしむ。

一茶は50歳まで江戸にて一人暮らしで俳諧一筋に明け暮れ、その後故郷信濃の柏原村で妻帯して余生を送ったと言われている。

多くの口腔、歯にまつわる俳句の中に一茶の哀歎漂う日常生活が見えてくる。

### 第三章 キリスト教伝道者 内村鑑三。

札幌農学校学校入学当時から肋膜炎を病み、壮年期以降も腸チフス、不眠症などに悩まされて、生涯をどうして病に悩み苦しんだと言われている。

彼が一躍、宗教家として内外に名声を博したと言われる“How I became A Christian”（余は如何にして基督信徒となりし乎）の中に“むし歯”とブドウ糖との関係の記述があり、歯について日頃から関心の高さが伺える。

彼は日々丹念に日記を綴った。大正8年、58歳から昭和3年、67歳までの10年間歯口腔の病に悩み苦しみや、各所の歯科医院に通った闘病の有様が痛々しく記されている。

内村がもっとも恐れたのは、歯を失うことにより、信者や支援者への布教の講話に支障をきたす事であった。マイクや拡声器のない時代なので、壇上から歯無しの肉声では聖教は説けない。それは彼の伝道者生命に関わる事だった。

大正14年の歯科通いの日記には、「1月15日（木）曇、今尚 歯科医院に通っている。我が永久の悩みであるこの悩みが去るときに、生涯の仕事は終わるのであろう。」

内村にとって歯痛は永久の悩みであり、このいつとは終わることのない壮絶な闘いは、死する時まで果てしなく続くものと諦観していたことが伺える。

軽井沢の名所の一つ、軽井沢町星野に「石の教会 内村鑑三記念堂」がある。

その一角に、かの有名な「Dentistry is Work of Love」の英文の額入りの揮毫が展示されていて、そのいきさつなど詳細に解説されている。

これから以降、第8章まで、約160ページにわたりそれぞれの歯口にまつわる闘病生活の様子が、日記などをもとに丹念に綴られいく。

著者のこの本に託した思いは「本書は文学と史学と医学を混交した異形の医学書である」との小生が



直接的に伝え聞いた言葉に全てが包含されている。

歴史上の人々の口腔、歯の病苦と奮闘した日常生活を、これほどまで生々しく描写された、たぐいまれな本に巡り会えた幸せな思いで、多くの人、特に医療関係者にお勧めしたい一冊である。

## その2、歯科医学史の検証

誰も書けなかった、誰も書かなかった、  
誰かが書き残さねばならなかった史実

著作：中原 泉。 出版社：一世出版



第一章から第七章までを124ページに比較的にコンパクトにまとめられて、そのタイトルから手に取って読んでみたくなる本である。当時の関係書類、特に公文書などを丹念に俯瞰的に精査し、これまでの伝聞などによる不確かな歯科医療界の動静、歯科医学教育に関する知られざる事実（真実）をエピソードと共に、分かり易く、興味深く凝縮された内容になっている。

### 第一章 占領下の歯科教育改革



昭和20年（1945年）8月30日、連合国軍最高司令官 Douglas MacArthur と幕僚が神奈川県厚木基地に進駐した。この日のハーバード大学歯学部出身、銀座の開業医眞鍋光太と司令部の歯科医・軍医中佐 Dale B. Ridgelyの邂逅が、戦後の日本の歯科医療を制度改革の始まりと言われている。

それまでの日本の歯科医療事情、歯科教育の状況などを事前に調査・整理して、昭和21年（1946年）4月15日にGHQ総司令部においてRidgelyの主導の元、第一回歯科教育審議会開催された。

委員は23名で、奥村 鶴吉、高橋新次郎、長尾 優、入交 直重、中川 大介、加藤 清治、原田 良種などである。その当時の文部省の専門教育課長として眞鍋 満太である。

改革の骨子は

- 1) 歯科教育を大学程度に引き上げる
- 2) 米国の大学におけるごとく、歯科生に2年間の準備教育を施す
- 3) 歯科医師養成の専門教育を四ヶ年とするなど歯科教育6年制に対して工学部、農学部などの他の学部関係者からの強い異論など、紆余曲折の末、昭和22年7月22日、第11回総会で決着した。

第一回総会から僅か1年3ヶ月、Ridgelyの巧みな根回しなどで、あっという間に、アメリカの医科・歯科の二元性をモデルにした今日に至る日本の歯科医療の方向が決まった。

## 第二章 史実の錯誤か作為か

### —長尾回顧録の一記述—

長尾 優は昭和41年（1966年）、「一筋の歯学への道普請—東京医科歯科大学のあゆみ—」に、第一章の教育刷新委員会の模様を一部始終述べている。

しかし、その中の歯科大学の6年制への改革の審議の流れの中で、長尾が記述した委員長安部 能成に関する件、採決の手続きなどに事実との齟齬が疑われる。それがなぜなのかとの解明をすすめている。

その後の歯学の歴史上、誤ったと思われる記述が踏襲されていく様子が具体的に述べられている。

## 第三章 歯科医育草創期の史実

### —明治時代の学校制令と歯科学校—

明治39年（1906年）5月2日、歯科医師法（旧）が公付され、医師法とともに歯科医師法と言う身分法が確立された。この時が新しい歯科医師養成の起点と考えられる。

それまでの各種の歯科学校はせいぜい私塾レベルで極端に少ない歯科医師養成には焼け石に水であった。

歯科医師法（旧）の制定されたのを機会に、当時の、私塾的で民間任せの不備な歯科医師養成の歯科医学校に代わって、国の法制度上の歯科医学校の設立趣意書を、共立歯科医学校の中原市五郎らによって国に提出された。それでもなお、歯科医師養成に関する国の具体的な対応がないまま、富国強兵の国策に関わらずと顧みられなかった。

なお、既に明治39年（1906年）当時、医学校、医学専門学校は東京帝国大学はじめ官立・府県立12校、東京慈恵会医院医学専門学校はじめ私立の5校、全国で17校あった。それに対して、歯科医学校、歯科医学校は皆無だった。

そのような状況下、歯科教育の充実と、歯科医師の社会的責任、地位確立のため、共立歯科医学校の中原市五郎は同志と共に、明治40年（1907年）6月、私立学校令及び公立私立歯科医学校指定規則にもとづく私立共立歯科医学校の設立を東京府に申請、さらに文部省の設立許可を受けて7月2日に開校した。（その後同校は専門学校令により日本歯科医学専門学校となる。）引き続き私立東京歯科医学校、東京女子歯科医学校、大阪歯科医学校とつく。そのような流れを経時的に記述されている。

ちなみに、最初の官立の歯科医学校が設立されたのは歯科医師法交付から22年後、昭和3年（1928年）まで待たなければならなかった。

## 第四章 ふたりの私学人

### —吉岡 彌生と中原市五郎—

男尊女卑の社会、医学界でもそれは例外ではなかった。それに抗うべく、女子の医学教育に情熱を燃やして、明治33年（1900年）に私立東京女医学校を設立した吉岡彌生は、中原市五郎の元での歯科治療などが縁で二人は知己を得るようになった。

吉岡の影響を受けた中原が、歯科専門学校を立ち上げようと決心し、設立に至ったいきさつ、その後の二人のやり取りの様子が、その時の時代の匂いが醸し出されて、ほのぼのとして印象深い。昭和9年（1934年）7月1日、日本歯科医学専門学校付属病院の落成式の祝賀会での来賓挨拶（全文）などで当時の歯科の置かれた状況がよく伝わってくる。

## 第五章 歯科口腔外科の軌跡

### —その歴史的考察—



欧米、特にアメリカ合衆など世界の大部分においては悪性腫瘍手術などを含む口腔外科は顎顔面外科（Oral and maxillo-facial surgery）と呼ばれ、その担い手は医科・歯科のダブルライセンスが必要とされている。こうした中で歯科のライセンスのみで、そのような口腔外科を担えるのは、世界的にも我が国は稀な国である。

その由来は、明治39年（1906年）5月に制定された医師法、歯科医師法の2つの身分法が制定され、医歯二元制度が確立されたことに始まる。

その時、法規上に「口腔外科」が明記され、早くから共立歯科医学校（後の日本歯科医学専門学校）は旧来の歯科の枠組みを越えて口腔外科学講義と臨床実習に力を入れた。

その延長線上に、歯科医による歯科診療上の「死亡診断書」の発行、静脈内注射、全身麻酔が法規上認められるようになった。

時機を逃さず歯科の診療領域の拡大即ち歯、口腔の局所と全身的な関わりを意図して、奮闘した様子が具体的に記述されている。先人達の当時の活動は今日の全身を見据えた歯科医療の源泉と言っても過言ではない。

## 第六章 大隈 重信と富士見

### —大隈伯卒業生に語る—

明治・大正時代の総理大臣経験者で早稲田大学創設者、大隈 重信の日本歯科医学専門学校の第一回、二回の卒業式での来賓挨拶の全文を目にすることが出来る貴重な内容である。歯科医学がようやく日の目を見たことに対する歯科医学の評価、歯科予防の大切さ、歯科医学の可能性などに言及し、現在でも十分に通底する内容には、改めて共感する。

## 第七章 検証・歯科医学史の書誌

### —先史時代を記した歴史家たち—

明治の終わり頃までに歯科医学の通史は数多く残されているが、その中には伝聞によるもの、無意識・意識的な誤り、過信などを思わせる内容になっているものが見受けられる。

そのことを信頼に耐える文献に基づかない歯科医学歴史の先史時代と、著者は位置付けている。

歯科医学の有史時代はあくまでも旧歯科医師法の制定された明39年（1906年）から始まると、そのいきさつが縷々述べられて、その根底には事実にもとづいた確たる記録の裏付けの重要性を強調していると捉えている。

この本の著者は歯科大学の激務な要職にあつて、膨大な量の資料から丹念に事実を検証して、実証的に一冊の本にまとめあげた。

著者は「我が身が前車の轍を踏まないようにしなければならぬ」と祈りながら日夜奮闘して、その思いをこの本に託した。その執念が伝わってくる。

とかく伝聞など、何となく頭の隅に置かれがちな歯科医療に関わる歴史を再確認して、それをもとに現在の歯科医療制度ひいては将来の歯科医療のあり方などについて考えてみる必要があるようだ。本書はその手掛かりになるものと考え、先ずは一読、お勧めします。

著者紹介：中原 泉（Nakahara Sen）

昭和40年（1965年）日本歯科大学卒業。学校法人日本歯科大学理事長、名誉学長

医の博物館名誉館長、日本歯科医史学会の発足当時から中心的役割を担う。

歯科大学在学中にいくつかの同人雑誌の同人として文学活動。

その他の著書：「中原泉 全医の小説集」、「医の小説集 リンダの登音」、「生きて還る」「一口坂下る」（以上、テーマス）、常用歯科歯科辞典（編集者代表、医歯薬出版）等

## オアシス

オアシスとは「広辞苑」によりますと「砂漠中で水がわき、樹木の繁茂している沃地。生物群集の形成、隊商の休息などに役立つ。慰安となるもの。また、その場所。」とあります。

厳しい、混迷な社会情勢の中で歯科界もその流れに翻弄され、会員の皆さんは真に砂漠の中にいる感じです。そのような乾いた状態だからこそ、皆さんの湧水のような潤いのある討論等が求められると思います。

字数、形式、格調にとらわれずご投稿下さい。会に対する意見、希望、家庭内やグループのこと、又、過去の思い出、現在の心境、未来への期待などなんでも宜しいです。



## 体力づくり

南部地区会員 伊禮 昭 洋

さすがに古稀を過ぎると、体力の衰えを感じずにはおれない。5～6年前だっただろうか、孫に川遊びをさせたいと思い、娘家族を国頭村の比地川へと誘った。中流辺りでひと泳ぎさせた後、孫が滝をみたいというので、子供には少しきついかと思ったが、小学2年生の彼と二人だけで出掛けた。十数年前にも行ったことがあったので、すぐたどり着けるだろうと思ったが、結構アップ・ダウンが激しく、想像したよりきつかったし、道程も長く感じた。滝に着くまでは、それ程体力が落ちているとは思わなかったが、帰る際、これまで一緒に歩調を合わせて登ってきた孫は独りで足取りも軽やかに、時には小走りで行ったのだ。私はといえば、足の筋肉に疲労物質の乳酸が溜まってか動きが鈍く、足がなかなか上らない。疲れるので、時おり休まざるを得なかった。人生の下り坂をつくづく感じた。

ついでながら記すと、この比地の大滝には高校3年の時にクラス全員で行ったことがある。当時、歩道はなかったので、川伝いに結構時間をかけ、大岩をよじりながら登ったものだった。多少疲れたかも知れないが、滝で少々休むと、滝の音や鳥のさえずりを聴きながら自然の素晴らしさを愛でるほどのゆとりがあった。あの時よりはや60年が過ぎたのだ。疲れるのも無理はない。あの頃は人並み以上に体力があった。中学の時は柔道や剣道をしていて、全沖縄剣道大会では個人戦で優勝もした。当時、朝刊の新聞配達をしていて、走り回って配った後、その足で松川の坂下から首里高校まで駆け足で往復して、足腰の強化に勤しんだものだった。疲れという言葉

の意味が理解できないほど元気澆刺とした若者だったのだ。今ではどこからあのエネルギーが湧いてきたのか不思議に思う。

その後も運動を続けることができたなら、人並み以上の体力を維持できたかもしれない。しかし、残念ながら高跳びの着地で左足の足首を捻挫してしまい、ジャンプはおろか走ることもできなくなった。何しろ剣道では左足がバネとなって前方へ移動するので、その瞬間は左足に負担がかかり、かなりの痛みが伴った。剣道大会の参加を見送ろうとも思ったが、一計を案じ自転車のチューブを足首に固く巻き付けたところ痛みが軽減した。お陰で試合を全うすることはできたが、その日を堺にし、運動らしき運動はしなくなった。せいぜい軽いウォーキングのみに留めている。足の故障は運動量がかなり制限されることを知った。

還暦を過ぎたあたりから体力の衰えを自覚したので、スポーツジムへ通うことにした。ウォーキングマシンの上を40分ほど歩くこととストレッチが主だ。筋トレもすべきだが、時間が充分割けないのと、やり過ぎると疲れて、読書やハーモニカの練習に影響するので、最近までほとんどしてこなかった。

ところが、ひと月前にあの愛らしかった孫が腕相撲をしようと突然果たし状を突きつけてきたのだ。これには少し戸惑った。小学生までは新聞紙を固く丸めたものでチャンバラをして遊びの相手をよくしたものだった。時折は負けてあげてもよかったのだが、かつての剣道を思い出し、私も真剣になり

小手！胴！面！と大声を上げ楽しんだ。彼には常々「じいじいは剣道の達人で中学校の剣道大会で優勝したのだぞー」と吹聴していたので、多分私に対し剣豪としての尊敬の念を抱いているのではないかと勝手ながら想像している。ところが彼が中学に進級するや、勝てなかったチャンバラ相手も年を取ってきたので、腕相撲で打ち負かせるのではと思ったのだろうか、この果たし合いで勝てばチャンバラの仕返しもできると思ったに違いない。少し不安を抱きながらも挑戦を受けることにした。これは真剣勝負だ。通常なら負けても孫の成長を喜ぶべきものだが、事情が少し異なる。彼はこの老いた爺を剣豪だとみなしているのだ。剣豪は永遠に強くなければならない。これこそ彼が私に抱く偶像だ。それを「落ちた偶像」にしてはならないのだ。

食卓の上の物を片づけて、準備は整った。間合いを縮め互いの手首を軽くかける。相手の顔に微かな笑みが浮かぶ、俺は少し緊張した。偶像を傷つけてはいけなからだ。ヨシ！の合図で決闘開始。幼子だと思っていた孫は意外と成長していた。己の手首にがっしりと食い込んでくる。その一瞬、中学の頃父と腕相撲をしたことが脳裏に浮かんだ。その時はあっさり私が勝ったが、既に剣豪の基礎は出来上が

っていたのだ。この度は祖父と孫の対決だ。ハンデューはかなり大きい。試合は試合だ、負けるわけにはゆかない。吾輩も全身に力を込め頑張った。結果は辛うじてかつての剣士に軍配が上がったが、なかなか手強い相手であった。

この分だと来年は危うい。相手は上り坂、こちらは下り坂だ。益々落差が大きくなるばかりなのだ。幾つになるまで面目を保つことができるのだろうか。そこで決意を新たにして奮起することにした。

前述したようにスポーツジムへ通っているが、上半身は全く鍛えてこなかった。先日ジムへ行った際、トレーナーに腕相撲に強くなるにはどのような運動が効果的かと聞いたところ「何を今更？」と少し訝し気な表情していたが、丁寧に教えてくれた。鍛えるべきは力こぶの上腕二頭筋かと思ったら腕橈骨筋や背筋が大切で、懸垂やハンマーカー、リストカールが有効と教えてくれた。早速その部のトレーニングを始めたが、体がバラバラになりそうなので、きわめて軽いダンベルから始めることにした。この調子で鍛えていくと、ここ数年はタイトル防御も可能ではないかと思っている。若かりし頃のスポーツマンを自己イメージしながら、体力強化に励んでゆくつもりだ。「甦れ我が青春！」



## 美容整形

南部地区会員 伊禮 昭 洋

もう数年前になるが、美容整形を主題にした百田尚樹著の「モンスター」を読んだ。主人公は醜女がゆえに恋に破れ、学友からも疎んじられ、侘しく学生時代をおくる。卒業後上京し就職試験を数回試みるも面接で落とされ、能力に見合った仕事に就くことができない。また意に沿わない職場においても上司や同僚から軽んじられ、醜女であることのハンデューを骨の髄まで味わされることになる。ついに美容整形を決意し、新たな人生を踏み出す物語だ。著者が男性なので、美人に接する男性の心理が精細に描かれていて、男性たるものみんな同じ気持ちなのだと妙に納得した。人口構成の半分が男性である限り、「美人である」ということは何かと生存に有利に働くにはちがいない。

映画や芝居などでヒーローは男らしく逞しければ必ずしもハンサムである必要はないが、ヒロインは

まず美人と相場がきまっている。そうでなければ魅力あるストーリーにならないのだろう。空想の世界では誰でも彼らに自らを投影し、楽しんでいるからだ。人間にとっては才能や性格などは大切な要素だが、直接見ることはできず、理解するにはある程度の時間を要するものである。しかし美人であるとかハンサムであることは一瞥で十分であり、しかもそれは強力に異性を引きつける力をもっている。進化の過程で均整がとれ、色艶がいいということは、より健康であり、子孫を多く残す可能性が高かったからだろう。われわれのDNAに深く刻まれたもので、抗うのは難しい。美しさに対する感性は他の文化的要素とは次元を異にしているように思う。それは知性的に生きようとする者に悪魔的な誘引として感じさせることも多い。歌劇「タイス」はその間奏曲が大変甘美で有名だが、堅物の修道士が美貌の娼



婦タイスに改心を迫り、説くうちに恋に落ちてゆく物語だ。同じようなモチーフでS・モームの短編「雨」に、肉欲に負けた牧師が自殺してしまう姿が描かれている。往々にして美は理性を凌駕してしまうのだ。

経済的に豊かになれば、関心はいかに美しく見せるかに向くものだ。衣服やヘアスタイル、高級化粧品を用いての肌の手入れ、ピアスやネイルアートなど。これらの飾り立ては近代に始まったものでなく、縄文人の顎骨には歯を人工的に尖らせたり、抜歯の風習もあったようだ。つい最近までミャンマーのバダウン族の女性は首に螺旋状の首輪をはめ異常に長くしたり、アフリカ中部のチャドの女性は唇に10cmを越すような皿状のものをはめ込んで美を競っている。沖縄のハジチやヤクザの刺青もそのような類だろう。

美に対する憧れは、どの時代であれ同じだと思うが医療技術の向上に相まって、整形手術が行なわれるようになってきた。美容整形という韓国が有名だが、2006年、ソウルの京畿道（キョウキドウ）在住の18歳以上の女性810人を対象におこなわれたアンケート調査によると、約半数が整形の経験があると回答している。同年の世界各国の1000人当たりの美容整形件数ではやはり韓国が1位で13,7人、2位はブラジル、3位は米国と続き日本は5位で5,8人となっている。日本では1978年に美容整形に携わる医師は100人弱であったが2010年には約10倍となり現在もうなぎ登りに上昇しているようだ。

問題は生まれもった体にメスを入れ、改造するかどうかなのだが、これは自分とは何を指すのかという哲学的あるいは倫理的問題があるように思われる。たしかに我々は美しく「なる」ではなく「見せる」ために髭を剃ったり、髪型を変えたり、化粧をしている。つまり可逆的なのであまり心理的な抵抗は少ない。しかし不可逆的に変えてしまうとなると、自分のもっているDNAとその発現が異なることになる。現代医学を活用すれば顔面のみならず、仮骨延長法を用いれば足を長くすることも可能だ。個人的に考えれば己の欠点をカバーし、社会的ハンディーを避けるのはいいかもしれない。しかし結婚となると、これは集団としてのモラルに反するのではないだろうか。つまり種の選択が働かなくなるのだ。また人格形成と身体とは無関係ではないだろう。「私」は出生以来つねに「身体」を介して、外界と触れあうことで育成されたものだ。体が強靱だとスポーツに関心が向き、快活な性格になるだろうし、また病弱だと内向的な性格になりやすいかもし

れない。容貌が良いと場合によっては高慢な性格になることもあろう。いずれにしてもその人らしい人格と結びついてゆくものだ。極端な例を挙げると、先天性に四肢がない状態で生まれた乙武洋匡さんは「障害は不便です。しかし、不幸ではありません」と言い切っているが、それまでかなりの苦い経験をし、苦悩し続けたにちがいない。その過程のなかで彼自身の人格が形成され、四肢がないことと彼自身が一体となっているのではないだろうか。もし手と足が再生されたとき、便利ではあるが、彼の精神の中に埋め合わせのできない空洞ができるのではないかと思うのは、穿った見方だろうか。肉体にしろ能力にしろおのれの欠点を克服しようと努めるその姿勢こそ自分自身なのだから。人生はしばしば登山に例えられる。険しい坂を悪戦苦闘して目的の頂上を目指すのだが、難儀だからと言ってヘリのような乗り物に乗って到達しても喜びは半減どころか味気ないものになることだろう。我々大多数派は容貌のみならず能力においても満足している人は少ないと思う。しかしこれらの形質は何千、何万の世代を経て自分に伝わったもので、いかんともし難いものだ。欠点を嘆くより、生を与えられ、この自然界を認識できる奇跡的な存在であることを幸いだったと考えた方が良いのではないだろうか。

前述の「モンスター」の結末を述べると、帰郷し高級レストランを開業するのだが、その美人オーナーの接待ぶりが有名になり、多くの知名士が集う場所となる。その中に学生時代、彼女を避けてクラスメイトとして扱ってくれた男性が現れる。彼女は心の優しさに心を惹かれ、恋心をいだき続けていたので、当然ながらその彼に接近を図る。たちまちその美貌に魅了され彼は妻のいる身ではあるが、不倫関係を結ぶことになる。しかし彼女はこの偽りの美のため彼が思いを寄せているのではとの言いようのない自己否定感に耐えられず、ついにあのモンスターと呼ばれた女性は私なのだと告白してしまう。整形前の彼女を愛して欲しかったのだ。当然ながら彼は去ってゆく。告白しなければ結婚も可能だったかもしれないが、何故そうしなかったのか。自分とは何を指すのかを考えさせられる課題でもある。今日では臓器移植が一般的に行われている。心室中隔欠損のような遺伝性疾患は手術により治療可能である。美容外科と心臓手術はどう違うのだろうか。当然彼らは幸せになりたがっているのであり、医療はその手助けをしているだけだ。しかしこれらの行為は明らかに種の選択に関わる問題を含んでいるが、果たして正しく回答できる問なのだろうか。



## コンビニより多い歯科医院ってホント？

南部地区会員 比嘉良喬

良くマスコミに報じられるフレーズで「コンビニより多い歯科医院」、何の根拠で書かれるかが疑問になるが、相変わらず記事が無くなると歯科へのヘイトとして浮上してくる。

2022年7月12日の琉球新報に「セブンイレブン沖縄進出3年」の記事。

沖縄ファミリーマート328店舗・ローソン沖縄259店舗・セブンイレブン沖縄125店舗。合計712件。沖縄の歯科医院といえば最近微減616件（2017年）100件近くコンビニが多いのです。又営業日時間・診療日の数は異なりますが、コンビニでは日販（売上）50～60万、歯科医院においては、おそらく月30万点（300万）程度ではないでしょうか。

何故いつまでもコンビニと比較するのでしょうか

か、業種も違えば仕事の内容も異なるので本来は比較しようがない、医科のクリニックとの比較なら設備投資や診療報酬での比較ができるのですが、医科に気を使っているんでしょうかね。そんなところにも歯科界の弱さが見え隠れするのではないのでしょうか、もっと外向けのメッセージとしてお口の健康が身体健康につながる、糖尿病や心筋梗塞など更に認知症への予防にもつながる事を積極的に出していくことが、これからの歯科界にとって重要ではないでしょうか。

それができるのが沖縄県歯科医師会の重要な役割だと思っています。

沖縄の健康に向けて「ちむどんどん」



## 「昔はこうだった」という前に働き方改革

南部地区会員 比嘉良喬

年配者が若い人に、良く使われるフレーズ。その時代に生きてきた人には普通であるが、時代とともに生き方も仕事も変化しつづけている。

戦後は国土復興に、朝から晩まで働く仕事人間。その結果公害など負の遺産もあったが、高度成長を果たした。モーレツ人間・月火水木金土と働きづめの方々にとっては、今の若い人の働き方には、ついついいらだつだろう。私もその範疇の人間です。

昭和30年、戦争を知らない子供達の世代から新人類、氷河期世代、最近ではZ世代と時代ともに呼び名が変異している。

しかし、その時代にへつらう事もない、まずは自分がどうしたいか。

20数年公務に関わって一線から退いて5年、診療所の運営に向き合ってみて、患者さんの世代も2歳から90歳代まで幅広く、生活環境など時代の流れが口の中に見える。

1986年に現在の地で地盤を引き受け、予約制と週休二日制（土・日）を導入。夜間診療も週の3日20

時まで行っていました。幸い新卒の歯科衛生士が確保でき、受付1名のスタッフ3人と技工士1名（先代から継続）、ユニット3台でスタート。年代もそう離れていなかったもので、特に問題もなく働くことができた。その後は勤務医の採用やスタッフの増員等10年が過ぎ、車椅子の患者さんもいる事で、思い切って1階へ診療室を移動、当時では珍しい自動ドアでの土足での診療室でスリッパの管理から解放。車椅子での来院できるよう導線やトイレ・レントゲン室など車椅子目線での設計。院内の掃除に関して外部委託にて隔月でのフロア清掃。レントゲンもアナログでの現像液管理の難しさを、デジタル化への変更でスタッフの仕事の改善を図った。画像も各ユニットで見れるようLANにてユニット毎にパソコンを設置しレントゲン写真の管理も行う事が出来た。ICTの始まりで、ユニットも5台に増え診療時間も7時までとした。

スタッフが増えたので、ローテーションでの週休2日制は維持し、診療日を月～土とし患者さんの増



を図った。しかし、私は相変わらず月～土までの勤務でした。(自分の働き方改革できず)。

その後建物の老朽化で、再度改修するかの問題点が勃発。改修しても10年その後立て直しとなる。当時は会長職であったがまだ50代前半、また息子が大学在籍でもあり、後は息子に託すことにし、建て直しを決定。ユニットも7台に増え(そのうち2台は歯科衛生士専用のユニットを設置)、さらに各ユニットでカルテ入力ができるLAN構築をおこなった。診療時間も10時開始を9時にし、診療終了時間を7時から6時に前倒し。早く帰れる働き方改革を知らずに行う。

2020年コロナの影響もあり、保育園児の濃厚接触での休みや、産休や育児休暇のなどが加わり、現状のローテーションでの週休二日制ではスタッフの減や予約の間引きなどがあり、これまで継続していた月～土の診療日を、2021年10月から水・日休診日とした1986年当時の完全週休2日に戻した。これによって診療日のスタッフの確保が安定した。

2022年1月からは、タブレット導入することで、ユニット周りからパソコンが無くなりスッキリとし、直接入力が行えることで時間の短縮にもつながった。

更にタブレット内の説明ツールなど資料を探すことなくその場で説明ができるようになり、口腔内写真やレントゲン写真も拡大ができ、より患者さんへの理解度を得られてきた。位相差顕微鏡の結果や唾液検査もデータとして残せ必要ときに患者さんに確認できる。院内ICTの進化系です。

さて、現在のスタッフの構成も50代3名・40代1名(勤務医)・30前半3名・20代1名、院長は前期高齢者であり世代のギャップがある。今回50代のベテランスタッフの退職希望もあり、又数年後の事業承継へ向けて、改めて診療体制の抜本的な改革が必要となる。考え方が世代によって異なるのは社会情勢や家庭環境等々色々な事が関わっていますので解答はありませんが、医療人としての基本は変わらない、患者さんの健康を維持管理する事です。診療スタイルも治療からケアへそして予防の継続的管理へとシフトする時代です、スタッフがゆとりをもって勤務できる体制をつくることだと感じます。2023年以降私を含めてスタッフがどう変わっていくのが楽しみにしています。

稚拙な文章をご了承願います。



### 治療中断で悪化事例も

県歯科医師会コラム  
**歯の長寿学**  
  
 326

波平真樹

下地中央歯科医院(宮古島市)

毎日の新型コロナウイルスに関するニュースに、疲弊されている方も多いかと思えます。感染が確認されてから2年余がたちますが、その間、歯科医院を取り巻く環境にも変化がありました。私は宮古島で診療しており、以前は沖縄本島、本土で開かれる講習会に足を運んでいましたが、現在はオンラインで受講しています。便利ですがスクールの維持・向上のためには、オンラインのみでは難しいこともあります。歯科医院ではコロナ禍以前より感染対策として、タービン(歯を削る器具)をはじめ歯さまのお口に入る器具は全て滅菌消毒し、滅菌できないものは使い捨てを使用しています。

### コロナ禍の診療

私も徹底するようにになりました。このような対策によって今まで以上に安心して治療が受けられるようになっております。

ただ、思うように診療できないこともあります。密にならないよう歯科医院側から調整する場合もあれば、来院予定の方から「コロナ禍なので受診を控えたい」との声が寄せられたこともあります。

こんなこともありました。施設に入居する方に奥歯の神経の治療をした後、県の緊急事態宣言が発令され、入所施設が外出禁止に。継続した治療ができなくなりました。宣言終了後もその方は受診できない日が続き、歯の状態が悪くなり、抜歯になってしまいました。こうしたケースはまれだとは思いますが、今後どのように改善すべきかを考えなければいけません。

その対策として、定期的に検診を受けることが大切です。虫歯や歯周病の早期発見にもつながります。コロナ禍で受診できなかった皆さま、より安心していかなった歯科医院を受診してみませんか。

一日も早くコロナの終息を願ってやみません。

|| 第3水曜日掲載

令和4年7月20日(水曜日)

### 鼻呼吸忘れず 機能維持

県歯科医師会コラム  
**歯の長寿学**  
  
 327

友寄泰樹

ともよせ歯科医院(那覇市)

新型コロナウイルスの感染拡大が続く、マスク生活も長引いています。うんざりしている方も多いのではないのでしょうか。私たち歯科医師は元々仕事中にマスクをしていたのである程度慣れていますが、マスク着用の習慣がなかった方にとっては苦痛かもしれませぬ。そんなコロナ禍のマスク生活で気になることが二つあります。

一つは呼吸です。マスクが苦しくて口で呼吸していませんか？人は鼻呼吸によって吸う息の温度や湿度を調節し、鼻はウイルスや花粉、ごみなどから体を防衛するフィルターのよう役割を果たしています。鼻は天然のマスクのようなものです。

口呼吸は口の中を乾燥させ、むし歯や歯周病のリスクを高めます。顔かたちや歯並び、口臭、免疫異常などにも影響を与えます。マスクの下でも鼻呼吸することを忘れないでください。

また、就寝時のマスクで口呼吸になっていることもあるようです。その場合は、口の真ん中をテープでとめるマウステーピングをお勧めします。

気になると二つ目は、口の機能の低下です。コロナ流行前から問題にされていたことですが、さらに悪化してきているようです。人と会って話したり、歌ったりする機会が減ったからでしょうか。口唇や頬、舌は使わなければ機能が低下していきます。小児の場合、機能発達に影響が出ます。

### マスク生活と口の健康

口の機能低下は、口呼吸にもつながります。それを防ぐには、積極的に口を動かすことが重要で、おもちゃの吹き戻しや風船ガムなども有効ですが、マスクをしていてもできる体操があります。

①「あー」と口を大きく開ける  
 ②「いー」と横に大きく広げる  
 ③「うー」と強く前に突き出す  
 ④舌を上げたり回したりする  
 ⑤頬を膨らませる  
 ⑥といた体操です。詳細は県歯科医師会のホームページに載っています。ぜひご覧ください。簡単な健康法ですので、ぜひ習慣化して、免疫力を上げていきましょう。

|| 第3水曜日掲載

令和4年8月17日(水曜日)

### 体操や歯磨きで長持ち



328 

金子智之

沖繩ホワイトデンタルクリニック (北谷町)

ようやく新型コロナウイルス感染者が減少し、少し明るい気配が感じられてきたように思います。さて、本日は歯の詰め物やかぶせ物が、どのようにすれば長持ちするかについてご説明いたします。

最初のボイントは、歯きしりや食いしほりをなるべくしないことです。歯は天然の物で、詰め物やかぶせ物は人工の物です。歯と詰め物などをくっつけるには接着剤のようなものが必要ですが、強い力がかかると外れる恐れがあります。ひしゃく歯きしりや食いしほりをすると、接着部分が非常にわずかですが剥がれてしまいます。このため毎日歯きしりなどを繰り返すと、本来期待できるより短い期間で詰め物やかぶせ物が取れてしまうかもしれません。

### 歯の詰め物やかぶせ物

その予防として「あいうべ体操」をご紹介します。詳細は「自身でインターネット検索していただきたいのですが、一言で言えば口と舌の体操です。「あいうべ」と発音すると、口と舌の運動になり、食いしほりの軽減が期待できます。歯科医院で作成するマウスピースも効果があるでしょう。

次のボイントは、虫歯にならないことです。かぶせ物や詰め物との境目は、虫歯が再発しやすい場所です。毎日しっかりと歯ブラシとフロスをしていたり、さらに週に一度は、歯垢染め出し液を使用することをお勧めします。歯垢染め出し液は歯科医院で数百円で購入できる上、費用対効果が非常に高いです。自分の歯磨きの癖に気付くこともできます。

最後のボイントは、歯科医院での定期健診です。歯科のプロフェッショナルに歯きしりなどの有無や磨き方の癖をチェックしてもらい、治療した歯と歯の詰め物やかぶせ物が長持ちするようになりましょう。

県内の歯科医院では、新型コロナウイルスのクラスターは1件も発生しておりません。安心して受診してください。

■第3水曜日掲載

### うがいや拭き取り大切



329 

宮本英敏

那覇デンタルクリニック(那覇市)

皆さま、災害への備えはできていますか？ さまざまなテクノロジーの進歩により私たちの生活は豊かになりました。しかし、新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るうなど、想定外の事態がわれわれの生活を脅かしています。そして、そのような緊急事態においては口腔健康管理がなおざりになってしまつております。

私は2011年の東日本大震災当時、仙台市におりましたが、避難所での口臭の健康が大きな問題となつたことをよく覚えております。大規模災害時における避難所での集団生活では、偏った食生活やストレスによる免疫力の低下で歯周病が急性化したり、親知らずの周りの腫れが腫れやすくなつたりします。ライフラインの断絶で水不足となると、歯磨きやうがいなどの口腔

### 災害とお口の健康

清掃がおろそかになってしまいます。口腔内を清潔に保てないと、口臭の原因になるだけでなく、誤嚥性肺炎などの呼吸器感染症が増加すると言われています。実際に、阪神・淡路大震災における「関連死」の割合を調べたところ、最も多かったのは肺炎だったことが分かっています。災害時における口腔健康管理の大切さがよく分かる結果ではないでしょうか。

ではどうしたら災害時にも口腔衛生を保てるのでしょうか。ここではその方法を紹介します。

①歯ブラシがない時/ペットボトルのキャップ1〜2杯の水やお茶でブクブクうがいをしましょう。ハンカチやティッシュを指に巻き付けて汚れを拭き取ることも効果的です。洗口液や入れ歯用洗浄シートの備蓄もお勧めです

②水不足時の歯磨き/歯ブラシを少しだけ水でぬらしてブラッシング。歯ブラシに汚れがついたらその都度ティッシュで拭き取ります。最後に、大きじ2杯程度の水ですすぎます。

いかがだったでしょうか？ 頭の片隅に置いてもらえたらと願っています。非常時でもお口の健康を忘れず。

■第3水曜日掲載

●令和4年9月21日(水曜日)

●令和4年10月19日(水曜日)



地方紙だより

### 歯科医の比嘉氏 仏の名誉領事に

県出身者で初

在京都フランス総領事館  
のジュール・イルマン総領



照屋義実副知事(中央)に就  
任あいさつした在那覇フラン  
ス名誉領事の比嘉千春氏(左  
から2人目) 11月13日、県庁

事は13日、那覇市出身の比嘉千春氏(64)を第3代在那覇名誉領事に認定した。県出身の名誉領事は初めて。

比嘉氏は那覇市出身。浦添市で歯科医院を開業。1989年に初めて訪れたフランスでフランス語の響きに魅了され、フランス語の習得や沖縄とフランスの交流史の勉強を始めた。歯科医院では、フランス語による治療にも対応している。

比嘉氏は同日、県庁記者クラブで会見し、「フランス人はウチナンチュのために、ウチナンチュはフランス人のために」をモットーに、フランス人が沖縄で安心して生活できるように尽力したい」と述べた。沖縄を含む西日本を管轄する在京都総領事館とも連携し、業務を支援する。比嘉氏は県庁で照屋義実副知事にも就任あいさつした。

●沖縄タイムス

令和4年10月14日(金曜日)

# 理事会報告

■ 令和4年度 第7回定時理事会 令和4年7月12日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

## I. 報告事項

1. 令和4年度都道府県歯科医師会学術担当理事連絡協議会出席報告
2. 社会保険委員会の答申（会員の点数アップのための対策）について
3. 第50回産業医学講習会について
4. 令和4年度沖縄県障害者歯科地域協力医等養成研修事業補助金交付について
5. 令和4年度心身障害児（者）歯科診療事業補助金の交付について
6. 沖縄県HIV/AIDSセミナー2022（仮）について
7. 厚生労働省補助事業「歯科技工士の人材確保対策事業」愛知県シンポジウムの案内について
8. 令和4年度賃金構造基本統計調査の実施に係る協力依頼について
9. 令和4年毎月勤労統計調査特別調査に対する調査協力について
10. 毎月勤労統計調査（第二種事業所）の事前調査への調査協力依頼について
11. 野口英世記念感染症ミュージアムオープンの案内について
12. 歯科医師推薦のお願い（大分県歯科医師会）について
13. 令和4年度全国学校保健・安全研究大会並びに第72回全国学校歯科医協議会開催について
14. 委員会報告
  - ①医療管理・医業経営
  - ②保険
  - ③学校教務

## II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員（第1種・第2種会員）の入会について

## III. 議事事項

- 第1号議案 臨床実習施設の新規増設と施設変更の認可に関する件  
 第2号議案 歯科特殊健診料金に関する件  
 第3号議案 外部審査員報酬に関する件

## IV. 協議事項

1. センター事務業務の分担について

## V. その他

1. 令和4年度沖縄県歯科口腔保健推進協議会について
2. 「ダメ。ゼッタイ。「国連」支援募金運動（薬物乱用防止活動を支援するための募金運動）に対する協力について
3. センター診療について
4. 令和4年度歯科医療関係者感染症予防講習会について
5. 「第4回四国女性歯科医会」における講演について
6. 令和4年度第1回九地連協議会における提出協議題について
7. 令和4年度第1回九州各県歯科医師会専務理事会における提出協議題について

■ 令和4年度 第8回定時理事会 令和4年7月26日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

## I. 報告事項

1. 第198回日本歯科医師会定時代議員会出席報告
2. 令和4年度沖縄県学校保健会理事会及び情報交換会（研修会）出席報告



3. 令和4年度学校保健及び学校安全表彰候補者選考審査会出席報告
4. 県立南部医療センター・こども医療センター地域医療支援病院運営委員会出席報告
5. 令和4年度全国共通癌医科歯科連携DVD講習会開催報告
6. 医療用手袋備蓄品の再売却に係る公募の実施について
7. 「疑義解釈資料の送付について(その18)」について
8. 電子処方箋に関するオンライン説明会の実施等について
9. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第二条第十五項に規定する指定薬物及び同法第七十六条の四に規定する医療等の用途を定める省令の一部改正について
10. 身元不明死体の歯牙照会依頼について
11. 新型コロナウイルス感染症の抗原定性検査キットの供給について
12. 令和4年度厚生労働省医政局歯科保健課委託事業-企業における効果的な歯科口腔保健の取り組み事例の推薦のお願いについて
13. 令和4年7月14日からの大雨による災害の被災者に係る被保険者証等の提示等について
14. 令和4年7月14日からの大雨による災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取り扱い等について
15. 第74回九州歯科医学大会第2予報の送付について(お願い)
16. 令和4年度歯科技工士の人材確保対策事業「やりがい再発見! 選べる歯科技工プログラム2022」の案内について
17. 令和5、6年度「生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業」推進学校(地域)推薦について
18. オンライン資格確認の導入が原則として義務づけられます~データヘルスの基盤となります~
19. 令和4年度災害歯科保健医療体制研修会の実施について
20. 医療緊急事態版コロナかな?と思ったら あなたを守り、医療を守るために協力いただきたいこと
21. 委員会報告
  - ①学校歯科      ②センター      ③保険
  - ④学校          ⑤地域保健      ⑥財務厚生
  - ⑦学術

## II. 承認事項

1. 沖縄歯科衛生士学校運営委員会委員変更について
2. 社会保険委員会委員の交代について
3. 講演会協力依頼(バイオガイアジャパン株式会社)について

## III. 議事事項

- 第1号議案 令和4年度沖縄県学校保健功労者・学校保健優良団体表彰の推薦に関する件

## IV. 協議事項

特になし

## V. その他

1. 取材依頼(医療経済出版株式会社)について
2. 訪問歯科診療機器の貸し出し(南部地区歯科医師会)について
3. 口腔保健医療センター診療実績について
4. 論壇投稿について
5. 外部団体依頼のメール送信料金について

■ 令和4年度 第9回定時理事会 令和4年8月9日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

I. 報告事項

1. 令和4年度沖縄県高齢者福祉対策推進協議会出席報告
2. 令和4年度沖縄県歯科口腔保健推進協議会出席報告
3. 第2回沖縄県がん診療連携協議会出席報告
4. 第7回世界ウチナンチュ大会実行委員会出席報告
5. むし歯予防に関するキャッチコピー募集について
6. 公益社団法人日本矯正歯科学会ポジションステートメントマウスピース型矯正装置による治療に関する見解第2版について
7. 「いい歯の日」企画 全国地方紙広告掲載について
8. 新型コロナワクチン接種4回目接種のお知らせについて
9. 医療機関等における物価高騰への支援の拡大に関して（補足）について
10. 医療機関等への支援に関する新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用の再周知及び調査について
11. 新型コロナウイルス感染症に係る医療機関・保健所からの証明書等の取得に対する配慮に関してについて
12. 公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて（7/29、8/4）
13. 医師法施行規則等の一部を改正する省令について
14. 令和4年度院内感染対策講習会について
15. 災害時重要施設への石油製品供給に係る設備情報調査について
16. 患者からの医薬品副作用報告に関する広報の周知について
17. 令和4年度（第74回）九州歯科医学大会厚生行事について
18. アセトアミノフェミン製剤の安定供給について
19. 令和4年度沖縄県認知症疾患医療センターWeb研修会開催のお知らせについて
20. 推奨品（ライオン株式会社）パッケージおよび名称変更について
21. 「令和5年度税制改正に関する要望書」の送付について
22. ロキソニン錠60mg限定出荷に関するお知らせについて
22. 委員会報告
  - ①調査広報
  - ②学校歯科

II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員（第1種、3種会員）の入会について
2. 沖縄県歯科医師会会員の退会について
3. 沖縄県歯科医師会共済金給付申請について
4. 事務局職員の採用について

III. 議事事項

- 第1号議案 沖縄県公衆衛生大会知事表彰候補者の推薦に関する件  
 第2号議案 歯科特殊健診の交通費に関する件

IV. 協議事項

1. 令和4年度沖縄県後期高齢者医療広域連合歯科健診事業委託契約書について

V. その他

1. 第1回歯がんじゅうデジタルフォトコンテスト（案）について
2. 公益社団法人日本学校歯科医会小学校1年生向け学校歯科保健冊子の無料配布について
3. 口腔保健医療センター診療実績について
4. オンライン資格確認の導入が原則義務化されることについての説明動画について

5. 保険請求の注意事項について
6. 職員の人事異動について
7. 職員の電話対応について

■ 令和4年度 第10回定時理事会 令和4年8月23日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

---

I. 報告事項

1. 健康おきなわ21（第二次）など最終評価・次期計画策定に係る総括委員会出席報告
2. 令和4年度第1回沖縄県保険者協議会出席報告
3. 令和4年度歯科衛生士専任教員講習会Ⅱ出席報告
4. 令和4年度日本歯科医師会会長表彰候補者の審査結果について
5. 「オンライン資格確認」医療機関等向けポータルサイト仮ID・アカウント一括発行及び架電の実施に関する会員への周知について
6. 新型コロナウイルス感染症の抗原定性検査キットの供給について
7. 労災レセプト電算処理システムの利用促進に係る協力依頼について
8. 毎月勤労統計調査（第一種事業）の事前調査協力依頼について
9. 令和5年度九地連公募事業応募・採択要領について
10. 令和6年度九地連公募研究事業のテーマについて
11. 令和4年度第1回教育研修会歯科特殊健診問合せや依頼があった際の対応について
12. 加入者に向けた「ジェネリック医薬品に関するお知らせ」の送付について
13. 「オンライン資格確認推進協議会」と厚生労働省合同での説明会（ライブ配信）開催の周知について
14. 医療用解熱剤鎮痛薬の安定供給について
15. 学会等に対する後援・助成などへの判断基準の調査結果について
16. 委員会報告
  - ①学校
  - ②調査広報
  - ③センター
  - ④地域保健

II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員（第1種会員）の入会について
2. 学校歯科委員会の副委員長の後任と委員の増員について
3. 令和4年度「薬と健康の週間」の後援名義使用について

III. 議事事項

- 第1号議案 沖縄県歯科医師会会費減額申請に関する件  
第2号議案 謹告の掲載に関する件

IV. 協議事項

1. 職員の労働環境改善への提案について
2. センター来訪者について

V. その他

1. 第41回日本障害者歯科学会について
2. センター診療実績について

■ 令和4年度 第11回定時理事会 令和4年9月13日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

---

I. 報告事項

1. 沖縄県医療審議会医療法人部会出席報告
2. 令和4年度九州地区学校歯科医会役員連絡協議会出席報告
3. 令和4年歯科疾患実態調査の実施について

4. 沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金の交付について
5. 令和5年度概算要求—歯科保険医療施策の概要—について
6. 後期高齢者医療における窓口負担割合の見直しに伴う診療報酬明細書の計算事例の追加について
7. 労働安全法に基づく歯科健康診断時の結果報告書について
8. 社会保険診療報酬点数早見表について
9. 協会けんぽの各種申請書について
10. 厚生労働省補助事業「歯科技工士の人材確保対策事業」神奈川シンポジウムの案内について
11. 第43回全国歯科保健大会の開催について
12. 令和4年度沖縄県心身障害児（者）歯科診療拡充事業補助金に係る交付決定前着手の承認について
13. 麻薬取扱者免許証の有効期間の周知等について
14. 歯科保健事業功労者（厚生労働大臣）表彰について
15. 日本歯科医師会限定クレジットカード決済サービスについて
16. 「大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト創出支援事業委託業務」に係る社会課題の現状把握に関するアンケート調査への協力について
17. 第65回沖縄県社会福祉大会の開催について
18. オンライン資格確認システム導入について
19. 電子処方箋に関するオンライン説明会の実施等について
20. オンライン資格確認義務化について
21. 「オンライン資格確認」の早期申込・早期導入に向けた取組について
22. オンライン資格確認システム導入の原則義務化に関する会員向けアンケート調査の実施について
23. 電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金の創設（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増額・強化）について
24. 令和4年度労働衛生コンサルタント試験受験講習会の開催について
25. 委員会報告
  - ①学術      ②保険      ③センター
  - ④地域保健      ⑤学校歯科

## II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員（第1種）入会について
2. 令和4年度沖縄県臓器移植普及推進月間における後援について
3. 令和4年度沖縄県結核予防週間の後援について
4. 第36回世界食料デー沖縄大会後援名義使用願いについて
5. 第27回「いい歯の日」イベント開催における後援団体名義使用について
6. 第65回沖縄県社会福祉大会の協賛方について
7. 職員の休職について

## III. 議事事項

- 第1号議案 ホームページの改正に関する件  
 第2号議案 令和4年度日本歯科医師会会員有功章授章候補者の推薦に関する件  
 第3号議案 歯科特殊健診の健診料に関する件

## IV. 協議事項

特になし

## V. その他

1. 保険委員会主催説明会のお知らせについて
2. 後期高齢者医療の窓口負担割合の見直し等に係るお知らせについて
3. センター診療部長の資料について

4. センターの診療状況について
5. 事業所健診当日の歯科治療について
6. 沖縄電力乳幼児検診について
7. 歯科技工士を対象とする意識調査について
8. コロナ見舞金申請状況について
9. カードによる会費引き去りについて
10. 職員の人事異動について

■ 令和4年度 第12回定時理事会 令和4年9月27日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

---

I. 報告事項

1. 歯科医療機関経営に係る物価高騰の影響調査の実施について
2. 令和4年度歯科医療関係者感染症予防講習会の実施について
3. 「職場の健康診断実施強化月間」の実施に関する協力依頼について
4. 身元不明遺体に関する捜査協力依頼について
5. 令和4年度診療報酬改定において経過措置を設けた施設基準の取扱いについて
6. 医療情報・システム基盤整備体制充実加算の取扱いに関する疑義解釈資料の送付について(その1)
7. 診療報酬明細書(見本)について
8. 点数早見表(1)について
9. 院内掲示用ポスターについて
10. 令和4年台風第15号による災害の被災者に係る妊婦健康診査などの各種母子保健サービスの取扱い等について
11. 後期高齢者医療における窓口負担割合の見直しに伴う配慮措置に係る事務処理等について
12. 申請書等の様式変更及び新様式の使用に係る周知について
13. 沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金交付について
14. 「歯と口の健康シンポジウム2022」オンライン開催のお知らせについて
15. 委員会報告
  - ①調査広報
  - ②保険
  - ③学術
  - ④学校
  - ⑤学校教務

II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員(第3種)の入会について
2. 職員の休職延長について
3. 職員の休職について

III. 議事事項

- 第1号議案 令和4年度沖縄県医事功労者知事表彰候補者の推薦に関する件
- 第2号議案 第56回沖縄県母子保健大会における大会長表彰候補者の推薦に関する件
- 第3号議案 第54回沖縄県公衆衛生大会長表彰候補者の推薦に関する件
- 第4号議案 会費減額に関する件
- 第5号議案 沖縄電力健康保健組合歯科健康診断業務委託契約書に関する件
- 第6号議案 歯科特殊健診の健診料に関する件

IV. 協議事項

1. 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の支援メニューについて
2. 歯科医師会名称の使用(有限会社オーディーエー)依頼について

V. その他

1. 新年会の開催について



2. 歯科医療従事者永年表彰（30年以上）について
3. 借入金返済と抵当権抹消登記完了について
4. 職員の退職について

■ 令和4年度 第13回定時理事会 令和4年10月11日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

I. 報告事項

1. 令和4年度九州各県歯科医師会地域保健担当者会出席報告
2. 令和4年度九州各県歯科医師会学術担当者会出席報告
3. 令和4年度都道府県歯科医師会社会保険・情報管理担当理事連絡協議会出席報告
4. 令和4年度社会保険情報ネットワーク連絡会議出席報告
5. 令和4年度九州各県歯科医師会社保担当者会出席報告
6. 令和4年度第2回歯科連絡会議出席報告
7. 第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会出席報告
8. 返戻再請求及び再審査申出のオンライン化等について
9. 後期高齢者医療の窓口負担金割合の見直し等に係る医療機関何度向けの周知事項（説明資料の更新）について
10. 第23回九州歯科医療管理学会総会・学術大会開催のお知らせについて
11. 厚生労働省補助事業「歯科技工士の人材確保対策事業」明海大学シンポジウムの案内（明海大学・日大松戸）について
12. 医薬品副作用被害救済制度等の周知・広報について
13. 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の啓発ポスターの周知・配布について
14. 「全国都道府県歯科医会のHIV陽性者の歯科医療体制に関する現況調査」について
15. 日本歯科医師会会長予備選挙立候補の挨拶について
16. 歯科医療機関におけるインボイス制度への対応について
17. 「安心できる介護保険制度を求める署名2022」への協力依頼について
18. 委員会報告
  - ①学校歯科
  - ②地域保健

II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員（第1種）入会について
2. 沖縄県歯科医師会会員種別変更（第2種）について

III. 議事事項

- 第1号議案 第56回沖縄県母子保健大会における県知事表彰候補者の推薦に関する件

IV. 協議事項

1. 令和5年度事業計画について

V. その他

1. 論壇投稿について

■ 令和4年度 第14回定時理事会 令和4年10月25日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

I. 報告事項

1. 令和4年度第1回九州地区連合歯科医師会協議会出席報告
2. 第3回沖縄県立学校保健会理事会出席報告
3. 九州各県広報担当者会出席報告
4. 訪日外国人受入の再開を踏まえた外国人患者受入に関する体制の整備等について
5. 医師法施行規則等の一部を改正する省令の公布等について

6. 令和4年度歯科医業経営実態調査の実施及び協力のお願について
7. 審査結果連絡に係る帳簿等の変更について
8. 令和4年度共同募金への協力方について
9. 日歯制定診療情報提供文書価格改定のお知らせについて
10. おきなわ事業者復活支援金の申請期間延長について
11. 令和4年度学校保健及び学校安全表彰（文部科学大臣表彰）の被表彰者等について
12. 「第31回日本医学会総会2023東京」リーフレットの送付について
13. 返戻再請求のオンライン化について
14. 身元不明遺体に関する捜査協力依頼について
15. マスク着用に関するリーフレットについて
16. 製品の供給に関するお知らせとお願いについて
17. 医療事故情報収集等事業「医療安全情報No.191」の提供について
18. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則及び臨床研究法施行規則の一部を改正する省令の施行について
19. 「治療と仕事の両立支援・メンタルヘルス対策支援セミナー」の実施について
20. 2022年度歯・口の健康啓発標語コンタールの審査結果について
21. 2022年度歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール審査結果について
22. 第80回全国小学生歯みがき大会参加小学校募集について
23. 委員会報告
  - ①センター
  - ②学術
  - ③広報

## II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員（第3種）の入会について
2. 職員の休職延長について

## III. 議事事項

- 第1号議案 沖縄県歯科医師会会費減額申請に関する件
- 第2号議案 令和4年度沖縄県医療安全推進協議会にかかる委員の推薦に関する件
- 第3号議案 令和4年度第1回臨時代議員会開催日に関する件
- 第4号議案 寄付された金品の収受及び使途に関する件
- 第5号議案 沖縄歯科衛生士学校非常勤講師に関する件

## IV. 協議事項

1. 令和5年度事業計画について

## V. その他

1. 令和4年度「九州」「中国・四国」地区歯科医師会役員連絡協議会協議題について
2. センター診療状況について

## ■ 令和4年度 第15回定時理事会 令和4年11月8日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

### I. 報告事項

1. 令和4年度第1回九地連役員会出席報告
2. 第74回九州歯科医学大会出席報告
3. 第86回全国学校歯科保健研究大会出席報告
4. 令和4年度社会保険指導者研修会出席報告
5. 令和4年度公益社団法人日本障害者歯科学会第2回社員総会・会員総会出席報告
6. 返戻再請求及び再審査申出のオンライン化に関するQ&Aの送付について
7. 返戻再請求のオンライン化等について

8. オンライン資格確認等関係補助金等により取得した補助対象等財産に係る財産処分の取扱いについて
9. 公益社団法人日本歯科医師会福祉共済保険規則及び同規則施行細則の一部改正について
10. 公益社団法人日本歯科医師会年金保険規則施行細則の一部改正について
11. 「第18回在宅医療推進フォーラム」開催の案内について
12. 「令和4年度九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ」の開催について
13. スポーツ歯科に関するアンケート調査結果（福岡県歯科医師会）について
14. 日本歯科医師会会長予備選挙立候補者柳川忠廣政策リーフレットの送付について
15. 第22回沖縄県健康教育研究大会開催について
16. 令和4年度公益社団法人日本学校歯科医会会長表彰被表彰者の決定と表彰式について
17. 公益財団法人8020推進財団学術集会第20回フォーラム8020の開催について
18. 委員会報告
  - ①学校教務
  - ②保険

## II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員（第1種）の入会について
2. 沖縄県歯科医師会会員の種別変更について
3. 職員の採用について

## III. 議事事項

- |       |   |
|-------|---|
| 第1号議案 | 令和4年度「健康おきなわ21」推進協議会構成員の推進に関する件         |
| 第2号議案 | 沖縄県歯科医師会推奨品認定（サンスター株式会社）に関する件           |
| 第3号議案 | 「いい歯キラメキ2024」キャンペーン主催依頼（サンスター株式会社）に関する件 |
| 第4号議案 | 沖縄県歯科医師会会長表彰推薦に関する件                     |
| 第5号議案 | 沖縄県歯科医師会会員の減額申請に関する件                    |
| 第6号議案 | 令和4年度沖縄県歯科医師会認知症対応力向上研修会の実施依頼に関する件      |
| 第7号議案 | 推奨品継続延長（ライオン株式会社）依頼に関する件                |

## IV. 協議事項

1. 令和5年度事業計画について

## V. その他

1. 「日歯広報」コラム『都道府県通信』執筆について
2. 令和4年度第2回九州各県歯科医師会専務理事会提出協議題について

## 編集後記

### 仕上げ磨き～デンタルフェア会場での目からうろこな話～

「仕上げ磨きは何歳まで行えば良いのですか？」

我々歯科医師が日々の診療、学校・保育園での歯科健診、就学前健診会場などにおいて、子供の口の中を説明しむし歯予防の話をする時にお母さん、お父さんをはじめ養護教諭、保育所職員や学校関係者から良く聞かれる質問の一つです。

それまでの私は、『お子さんが本人自身でちゃんと磨けるようになるまでは頑張って仕上げ磨きを続けてください。』と答えていました。何とも曖昧な返答としりつつ（苦笑）。

十年以上も前の八重山地区デンタルフェア会場でのことでした。長蛇の列をなしていた歯科健診コーナーは滞りなく健診が進み、ブラッシング指導コーナーでは子供たちが赤く染め出したお口を大きく開け、鏡で覗き込んで一生懸命歯磨きをしていました。また隣の保健所が担当する体験コーナーでは、親子連れが歌に合わせてフッ化物ブクブクうがいを実践していました。時間が経つにつれ、来場者の最大の目的と思われる歯科衛生士によるフッ化物塗布コーナーが盛況になっていました。8台の健診台を設置し臨戦態勢で臨んだ歯科健診コーナーでは空きが見られるようになっていました。

私もその一人で、雑談しつつも隣で行われている健診での会話を何の気なしに聞いていました。

お母さん：「先生、子供も仕上げ磨きは何年生まで行えば良いのですか？」

あっ！例の質問だ、不意に訪れた例の質問にますます興味が出てきました。

○○先生：「お子さんは何年生？」

お母さん：「1年生です。」

○○先生：「1年生が使う国語のノートを思い出してみてください。大きなマス目のノートを使っています。それに比べて6年生が使うノートはマス目が小さくなっています。何故なのでしょう？」

お母さん：「小さなマス目ではうまく字が書けないからだと思います。」

○○先生：「そうですね。1年生では小さなマス目に字を書くほど指先の器用さが成長していないから、大きなマス目ノートが必要になります。」

お母さん：「小学校のノートが何か？」

○○先生：「鉛筆を歯ブラシに置き換えて考えてみてください。成長過程のあるお子さんは丁寧に歯磨きができるほど指先は器用ではありません。だからお母さんお父さんによる仕上げ磨きが必要になるのです。」

お母さん：「何年生まで仕上げ磨きをすれば良いのですか？」

○○先生：「小学校では何年生がどのノートを使うと決まっていますが、お子さんの成長は人それぞれです。自分自身でしっかりと歯磨きができるようになるまでは、仕上げ磨きをしてください。」

お母さん：「わかりました。では、子供が自分で磨けるようになったと判断すれば良いですか？」

○○先生：「毎日お母さんが仕上げ磨きをしていたら、お子さんの歯磨きが上手になったことにきつと気が付くはずですよ。たまには染め出し液で磨き残しをチェックしながら仕上げ磨きを行うとなお良いですね。」

○○先生：「家族皆さんで、年に2、3回はかかり歯科医院を受診してくださいね。」

砂川和徳

## 沖縄タイムス「歯の長寿学」 原稿募集について

沖縄県歯科医師会は、月1で沖縄タイムスの「歯の長寿学」欄に会員の先生のコラムを掲載しています。

内容は、歯の健康にまつわる事なら、なんでも構いません。報酬はありませんが、医院名や先生のお名前は掲載されますので、イメージアップにつながるかと思います。

1. 掲載内容：歯の健康について(分かりやすく中学生が理解できる程度で、面白い内容をお願いします)
2. 文字数：800字
3. 掲載日：第3水曜日
4. 送付先：沖縄県歯科医師会事務局  
・メール：okisi@okisi.org ・Fax：098-996-3562 ・郵送：〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-1
5. 原稿料：なし

\*誠に申し訳ありませんが、原稿の採用および掲載日については、広報委員会に一任頂きたいと思っております。

\*同じタイトルや同じような内容の投稿に関しては、掲載されないこともあります。

\*掲載が決まりましたら事前に校正していただくことがございます。

\*ご不明な点がございましたら、事務局または広報委員までお問い合わせください。

## 沖縄県歯科医師会HPについて

沖縄県歯科医師会のホームページ(<http://www.okisi.org/>)では、「歯医者をさがす」のコーナーで、会員の先生方の医院の紹介をしています。内容に誤りや変更がある場合、訂正いたしますので、事務局までご連絡ください。

また、ホームページ全体の改善点やご要望がありましたら、事務局または広報委員まで、ご意見お寄せください。

広報委員：梅村 誠、長堂 芳子、小場 幸夫、上原 かな、島袋 亮、砂川 和徳、真喜屋 建

### 令和4年4号

印刷日：令和4年11月25日

発行人：(一社)沖縄県歯科医師会

編集人：梅村 誠

発行日：令和4年11月25日

☎098 (996) 3561

印刷：(株)ちとせ印刷

<http://www.okisi.org/>

E-mail [chitose.f@gamma.ocn.ne.jp](mailto:chitose.f@gamma.ocn.ne.jp)



## 8020達成者認定証の発行について

平素より本会会務運営にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、このたび本会では会員からご推薦いただいた8020達成者に標記の認定証を発行する事といたしました。

つきましては、該当者がいらっしゃいましたら別添の推薦様式にて、ご推薦いただきたく存じます。

過去に8020表彰を受けていらっしゃる方も認定証という事で改めて対象になります。

認定証は会員診療所に送付いたしますので、会員から達成者にお渡しいただきたく存じます。

会員各位のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



### 連絡先

沖縄県歯科医師会事務局

TEL : 098-996-3561 FAX : 098-996-3562

## 8020達成者推薦書

沖縄県歯科医師会会長 殿

推薦者

医院名： \_\_\_\_\_

氏 名： \_\_\_\_\_

令和 年 月 日

以下の通り推薦申し上げます。

8020達成者推薦書		
氏 名	ふりがな	性 別
		男・女
生年月日(年齢)	明・大・昭 年 月 日 ( ) 歳	
ご本人連絡先	住 所	〒( - )
	電話番号	
現 在 歯 数	本	
自 立 状 態 (あてはまるものに○)	① 自力歩行可    ② 介助有りて歩行可    ③ 車いす ④ 外出困難    ⑤ その他 ( )	
補 綴 状 態 (あてはまるものに○)	① 不 要    ② 良 好    ③ 要 改 善	
特 記 事 項		

※県歯事務局へ郵送またはFAXにてご提出ください  
**(FAX : 098-996-3562)**

# 会員動向

会員：令和4年11月1日 現在507人

## 内 訳

種 別	男	女	計
1 種 会 員	312	43	355
2 種 会 員	12	3	15
3 種 会 員	33	16	49
4 種 会 員	1	0	1
終 身 会 員	74	13	87
計	432	75	507

## 正会員地区別

地 区	男	女	計
北 部 地 区	23	1	24
中 部 地 区	121	14	135
南 部 地 区	222	37	259
宮 古 地 区	16	7	23
八 重 山 地 区	16	0	16
計	398	59	457

## 入・退会状況（1種・2種・終身）（正会員）

種 別	男	女	計
入 会 者	6	1	7
退 会 者	3	0	3
計	3	1	4

## 入・退会状況（3種・4種準会員）

地 区	男	女	計
入 会 者	4	0	4
退 会 者	1	0	1
計	3	0	3

## 退会会員（3名）

氏 名	日 付	理 由
新 垣 茂 夫	令和4年7月15日	ご逝去（南部地区会員）終身会員
上 間 貞 博	令和4年9月21日	ご逝去（南部地区会員）1種会員
城 間 孝	令和4年10月6日	ご逝去（南部地区会員）1種会員

## 異動会員（3名）

氏 名	日 付	理 由
新 崎 章	令和4年4月1日	3種会員→4種会員
角 田 理 紗	令和4年10月1日	1種会員→2種会員（宮古地区会員）
林 尚 樹	令和4年10月1日	3種会員→1種会員（南部地区会員）

## 会員動静（新入会員 11名）

氏 名	生年月日	医 院 名	就業所所在地	出 身 校	卒業年月	会員種別	入会日
屋 宜 宣 寿	S52.4.16	よみたんハート歯科	読谷村伊良皆267-3	福岡歯科大学	H17.3	1種会員	令和4年8月1日
池 田 直 樹	S50.3.10	球美の歯科	久米島町真我里78 コーポ球美1F	長崎大学歯学部	H12.3	1種会員	令和4年8月1日
比 嘉 良 邦	S63.8.27	医療法人香優会 比嘉歯科医院	那覇市西1-15-16	日本歯科大学新潟生命歯学部	H27.3	3種会員	令和4年8月1日
柴 田 拓 也	S62.6.29	柴田ファミリー歯科	石垣市真栄里204-375 1F	九州歯科大学	H27.3	1種会員	令和4年9月1日
高 田 隆 充	S57.2.5	なぎさ歯科医院	うるま市塩屋402-1	長崎大学歯学部	H19.3	1種会員	令和4年9月1日
与那嶺 亮	H5.8.4	中部保健所	沖縄市美原1-6-28	九州大学歯学部	R3.3	3種会員	令和4年9月1日
石 垣 永 人	H3.4.16	医療法人健生会 上原歯科クリニック	浦添市前田1-48-1	長崎大学歯学部	R3.3	3種会員	令和4年9月16日
上 間 聡 子	S42.8.23	(医) 透進会うえま歯科クリニック	那覇市おもるまち4-16-32	九州歯科大学	H5.3	1種会員	令和4年9月22日
林 尚 樹	S63.2.24	はやしファミリー歯科	那覇市古波蔵1-7-6 メルソレイユ1F	九州歯科大学	H25.3	1種会員	令和4年10月1日
上 地 亮	H3.10.17	コザおとな・こども歯科	沖縄市胡屋4-14-28	岡山大学歯学部	H28.3	1種会員	令和4年10月1日
立 津 政 晴	S53.12.25	沖縄県立中部病院歯科口腔外科	うるま市字宮里281番地	朝日大学歯学部	H15.3	3種会員	令和4年10月1日

保険医療機関等の皆様へ（お知らせ）

令和4年度診療（調剤）報酬請求書等受付  
及び返戻レセプト等発送日について

令和4年4月～令和5年3月における診療（調剤）報酬請求書等の受付締切日等についてお知らせいたします。

なお、診療（調剤）報酬請求書等の提出については、請求省令により「診療翌月の10日まで」と定められておりますのでご留意願います。

受付月	受付締切日	受付開所日	返戻等発送日
令和4年 4月	10日（日）	9日（土）・10日（日）	4/4（月）
5月	10日（火）		5/2（月）
6月	10日（金）		6/6（月）
7月	10日（日）	9日（土）・10日（日）	7/4（月）
8月	10日（水）		8/4（木）
9月	10日（土）	10日（土）	9/5（月）
10月	10日（月・祝）	8日（土）・10日（月・祝）	9/30（金）
11月	10日（木）		11/4（金）
12月	10日（土）	10日（土）	12/5（月）
令和5年 1月	10日（火）	9日（月・祝）	1/4（水）
2月	10日（金）		2/6（月）
3月	10日（金）		3/6（月）

※ 受付時間は9:00～17:30までとしておりますので、ご協力の程よろしく申し上げます。



重要性分類Ⅱ  
事務連絡  
令和4年1月20日

沖縄県歯科医師会 御中

社会保険診療報酬支払基金沖縄支部

令和4年度診療（調剤）報酬請求書等受付  
及び返戻レセプト等発送日について（ご連絡）

平素は、支払基金の業務運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
さて、令和4年4月～令和5年3月における診療（調剤）報酬請求書等の受付締切日及び返戻発送日等について、下記のとおりお知らせいたします。

記

受付月	受付締切日	受付開所日	返戻等発送日
令和4年 4月	10日（日）	9日（土）・10日（日）	4/4（月）
5月	10日（火）		5/2（月）
6月	10日（金）		6/6（月）
7月	10日（日）	9日（土）・10日（日）	7/4（月）
8月	10日（水）		8/4（木）
9月	10日（土）	10日（土）	9/5（月）
10月	10日（月・祝）	8日（土）・10日（月・祝）	9/30（金）
11月	10日（木）		11/4（金）
12月	10日（土）	10日（土）	12/5（月）
令和5年 1月	10日（火）	9日（月・祝）	1/4（水）
2月	10日（金）		2/6（月）
3月	10日（金）		3/6（月）



沖国保連第1142-2号  
令和4年1月20日

保険医療機関（保険薬局） 各位

沖縄県国民健康保険団体連合会  
事務局長 高 良 昌 英  
（ 公 印 省 略 ）

令和4年度 診療（調剤）報酬請求書等の提出日及び診療報酬支払日について

本会の診療報酬審査支払業務につきましては、平素より格別なる御協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、みだしのことについては、請求省令により『診療翌月の10日まで』と規定されておりますが、本会では審査支払業務を円滑に実施するため受付協力日を別紙のとおりといたしました。また、支払日についても掲載しています。

については、受付日程への御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

※本会ホームページへも掲示いたしておりますのでご確認ください。

ホームページアドレス 「<https://www.okikoku.or.jp/>」

お問合せ先

沖縄県国民健康保険団体連合会 審査管理課

TEL 098-863-2063

別紙

令和4年度 レセプト受付日と診療報酬等支払日（国保）

	レセプト受付 協力日	レセプト受付 締切日	診療報酬等の支払日
令和4年 4月	8日(金)	10日(日) *開所	20日(水)
令和4年 5月	9日(月)	10日(火)	20日(金)
令和4年 6月	9日(木)	10日(金)	20日(月)
令和4年 7月	8日(金)	10日(日) *開所	20日(水)
令和4年 8月	9日(火)	10日(水)	22日(月)
令和4年 9月	9日(金)	10日(土) *開所	20日(火)
令和4年 10月	7日(金)	10日(月) *開所	20日(木)
令和4年 11月	9日(水)	10日(木)	21日(月)
令和4年 12月	9日(金)	10日(土) *開所	20日(火)
令和5年 1月	6日(金)	10日(火)	20日(金)
令和5年 2月	9日(木)	10日(金)	20日(月)
令和5年 3月	9日(木)	10日(金)	20日(月)

※ レセプトの受付締切は、10日(必着)です。(請求省令により毎月10日までと定められています)

※ 受付窓口は、午前9時から午後5時までです。

※ 12月は早期提出に御協力をお願いします。

※ 令和4年4月9日(土)、令和4年7月9日(土)  
令和4年10月8日(土)9日(日)、令和5年1月7日(土)8日(日)9日(月)  
 は開所となり、支払基金の受付日程とは異なります  
のでご注意ください。

郵便等により送付される場合は、  
 安全確実な方法にて毎月1～10日  
 必着をお願いします。

お問合せ先  
 沖縄県国民健康保険団体連合会  
 TEL 098-863-2473 (審査課)



SOMPOひまわり生命

あなたが健康だと、だれかがうれしい。

2022年7月作成



健康をサポートするがん保険  
勇気のお守り

祝 三冠受賞!

- 日経トレンディ2022年5月号保険大賞2022 がん保険部門 大賞
- 保険完全ガイド2022 最新版 がん保険ランキング「BEST BUY(1位)」
- 週刊ダイヤモンド2022年6月11日号 がん保険ランキング 1位



2021年10月発売から  
累計25万件のご契約をお預かりいたしました!

2022年9月21日時点



SOMPOひまわり生命保険株式会社

〒163-8626 東京都新宿区西新宿6-13-1新宿セントラルパークビル  
〈公式ウェブサイト〉 <https://www.himawari-life.co.jp/>

SOMPOグループの一員です。

お問い合わせ先

有限会社 オーデーエー  
沖縄県南風原町字新川218番1  
TEL・FAX (098) 996-3572



沖縄県の  
健康長寿復活に向けて



毎月

歯ブラシの日

8



日は

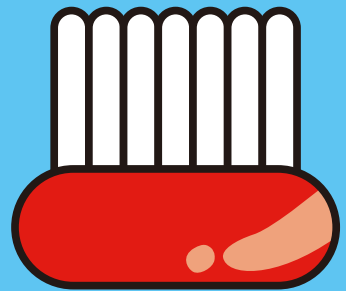
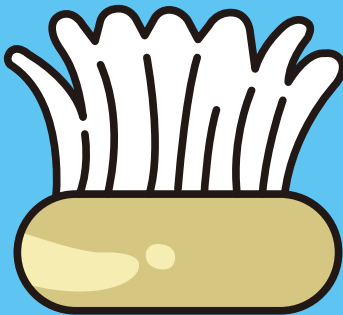
沖縄県歯科医師会制定

歯ブラシの日

Bad



Good



日本歯科医師会PRキャラクター よ坊さん(沖縄県)



(一社)沖縄県歯科医師会

TEL 098-996-3561